



CHAPTER 5

Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool のトレース機能、PerfMon カウンタ機能、 およびアラート機能

この章では、Cisco Unified Communications Real-Time Monitoring Tool (RTMT) のトレース機能、perfmom オブジェクトと perfmom カウンタ、およびアラート機能について簡単に説明します。内容は、次のとおりです。

- 「Cisco Unified Real-Time Monitoring」(P.5-1)
- 「RTMT でのパフォーマンスのモニタリング」(P.5-2)
- 「Cisco Intercompany Media Engine のパフォーマンス オブジェクトおよびアラート」(P.5-72)

Cisco Unified Real-Time Monitoring

RTMT はクライアントサイドのアプリケーションとして実行され、HTTPS と TCP を使用して、システム パフォーマンス、デバイス ステータス、デバイス検出、CTI アプリケーション、およびボイス メッセージング ポートをモニタします。RTMT は、HTTPS を使用して直接デバイスに接続し、システムの問題をトラブルシューティングします。Cisco Unified RTMT は次のタスクを実行します。

- システムの健全性をモニタするための、事前に定義された管理オブジェクトをモニタする。
- オブジェクトの値がユーザ設定しきい値を超えるか下回った場合に、電子メールによりさまざまな警告を生成する。
- トレースを収集し、RTMT に備わっているさまざまなデフォルト ビューアで表示する。
- Q931 メッセージを変換する。
- SysLog ビューアで syslog メッセージを表示する。
- パフォーマンス モニタリング カウンタと連動する。

Cisco Unified RTMT は、SNMP トラップに加え、ハードウェア ベンダーから提供される syslog メッセージをモニタおよび解析して、これらのアラートを Alert Central に送信することができます。アラートの発生を Cisco Unified CM のシステム管理者に通知するように RTMT を設定することも可能です。こうした通知は、電子メール、E ページ、またはそれら両方を使用して行うことができます。



(注)

RTMT は 1 つのクラスターで最適に機能します。複数のクラスターが展開されている大規模な企業ネットワークでは、Cisco Unified Operations Manager を使用することを推奨します。Cisco Unified Operations Manager の詳細については、<http://www.cisco.com/en/US/products/ps6535/index.htm> を参照してください。

RTMT でのパフォーマンスのモニタリング

Cisco Unified Communications Manager は、パフォーマンス カウンタ (PerfMon カウンタと呼ばれる) を更新します。カウンタには、登録されている電話機の数、アクティブ コールの数、使用可能な会議ブリッジリソースの数、ボイス メッセージングポートの使用状況など、システムとシステム上のデバイスについての簡単で便利な情報が含まれています。

任意のオブジェクトのカウンタを選択することで、システムのコンポーネントとシステム上のアプリケーションのコンポーネントのパフォーマンスをモニタすることができます。各オブジェクトのカウンタは、フォルダを展開すると表示されます。

Cisco Unified Communications Manager の場合、Cisco CallManager オブジェクトには Cisco Unified Communications Manager のパフォーマンス カウンタのほとんどが含まれ、これらのカウンタにはインスタンスが 1 つだけ存在します。他のオブジェクトに属するインスタンススペースのカウンタでは、インスタンスが 0 以上の場合があります。たとえば、2 台の電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録されている場合、Cisco Phones オブジェクトに属するカウンタごとに 2 つのインスタンスが存在します。

コンピュータで perfmon カウンタをローカルに記録し、RTMT でパフォーマンス ログ ビューアを使用して、収集した perfmon CSV ログ ファイルまたは Real-time Information Server Data Collection (RISDC) の perfmon ログを表示することができます。

RTMT はパフォーマンスのトラブルシューティングを実行するためにアラート通知を行います。また、パフォーマンス カウンタを定期的にポーリングして、そのカウンタのデータを表示します。パフォーマンスをモニタすることにより、次のタスクを実行することができます。

- 1 つのクラスタ内のすべての Cisco Unified Communications Manager サーバ (該当する場合)、TFTP サーバ、およびデータベース サーバを含めてパフォーマンス カウンタをモニタする。
- 一連の事前設定されたオブジェクトを継続的にモニタし、電子メールのメッセージ形式で通知を受信する。
- カウンタのしきい値設定をアラート通知に関連付ける。電子メールまたはポップアップ メッセージによる通知が管理者に送信されます。
- カスタマイズされたトラブルシューティング タスクのために、モニタされたカウンタ、しきい値設定、アラート通知などの設定を保存して復元する。
- 1 つのパフォーマンス比較図で、最大 6 つの perfmon カウンタを表示する。

この項の内容は、次のとおりです。

- 「PerfMon アラート通知」 (P.5-2)
- 「Cisco Unified Communications Manager の PerfMon オブジェクトと PerfMon カウンタ」 (P.5-4)
- 「システムの PerfMon オブジェクトと PerfMon カウンタ」 (P.5-57)

PerfMon アラート通知

アラート通知により、システムと Cisco Unified Communications Manager で発生している最新の問題を知ることができます。アラート通知は、すでに RTMT に含まれているパラメータを使用して設定するか、独自に設定することができます。表 5-1 に、使用可能な設定とその説明が示されています。設定は RTMT の各ペイン ([Threshold]、[Value Calculated As]、[Duration]、[Frequency]、および [Schedule]) に含まれています。

表 5-1 カウンタのアラート設定パラメータ

設定	説明
[Threshold] ペイン	
[Over] および [Under] の条件が一致したときにアラートをトリガー	<p>ボックスをオンにして適用する値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Over] : このボックスをオンにして、アラート通知がアクティブになる前に一致する必要がある最大しきい値を設定します。[Over] の値フィールドには、値を入力します。たとえば、進行中のコールの数と等しい値を入力します。 • [Under] : このボックスをオンにして、アラート通知がアクティブになる前に一致する必要がある最小しきい値を設定します。[Under] の値フィールドには、値を入力します。たとえば、進行中のコールの数と等しい値を入力します。 <p>ヒント これらのボックスは、[Frequency] および [Schedule] 設定パラメータと組み合わせて使用します。</p>
[Value Calculated As] ペイン	
[Absolute]、[Delta]、[Delta Percentage]	<p>適用するオプション ボタンをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Absolute] : データの現在の状態を表示する場合に選択します。これらのカウンタ値は累積されます。 • [Delta] : 現在のカウンタ値と前回のカウンタ値の差分を表示する場合に選択します。 • [Delta Percentage] : カウンタ パフォーマンスの変化を比率で表示する場合に選択します。
[Duration] ペイン	
[Trigger alert only when value constantly...]、[Trigger alert immediately]	<ul style="list-style-type: none"> • [Trigger alert only when value constantly...] : 指定時間 (秒) 内に値が常にしきい値の下限または上限を超える場合に限りアラート通知を送信する場合、このオプション ボタンをクリックして、アラートを送信するまでの指定秒数を入力します。 • [Trigger alert immediately] : アラート通知をすぐに送信する場合は、このオプション ボタンをクリックします。
[Frequency] ペイン	
[Trigger alert on every poll]、[trigger up to...]	<p>適用するオプション ボタンをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Trigger alert on every poll] : 各ポーリングでしきい値条件が一致したときにアラート通知をアクティブにする場合は、このオプション ボタンをクリックします。 <p>たとえば、進行中のコールが継続的にしきい値の上限または下限を超える場合、システムは別のアラート通知を送信しません。しきい値が通常の値 (進行中のコール数が 50 ~ 100) の場合、システムはアラート通知を非アクティブにしますが、値がしきい値の上限または下限を再び超えた場合、システムはアラート通知を再びアクティブにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [trigger up to...] : アラート通知を一定間隔でアクティブにする場合は、このオプション ボタンをクリックして、送信するアラートの数とアラートを送信する時間 (分) を入力します。

表 5-1 カウンタのアラート設定パラメータ (続き)

設定	説明
[Schedule] ペイン	
[24-hours daily]、[Start/Stop]	適用するオプション ボタンをクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> [24-hours daily] : アラートを 1 日 24 時間トリガーする場合は、このオプション ボタンをクリックします。 [Start/Stop] : アラート通知を特定のタイム フレームでアクティブにする場合は、このオプション ボタンをクリックして、開始時間と停止時間を入力します。このチェックボックスがオンになっている場合は、日次タスクの開始時間と停止時間を入力します。たとえば、カウンタを毎日午前 9 時から午後 5 時まで、または午後 9 時から午前 9 時までチェックするように設定することができます。



(注) 電子メールによる通知が必要な場合は、[Enable E-mail] ボックスをオンにします。

RTMT ではデータ サンプリングを使用することもできます。[RTMT Perfmon Monitoring] ペインに表示される perfmon カウンタには、経時的なデータのサンプルが緑色の点で表示されます。収集するサンプルの数や図に表示するデータ点の数は変更することができます。表 5-2 にはパラメータの説明が示されています。

表 5-2 データ サンプル パラメータ

パラメータ	説明
[Absolute]	一部のカウンタ値は累積されるため、データの現在の状態を表示するには [Absolute] を選択します。
[Delta]	[Delta] を選択すると、現在のカウンタ値と前回のカウンタ値の差分が表示されます。
[Delta Percentage]	[Delta Percentage] を選択すると、カウンタ パフォーマンスの変化が比率で表示されます。

Cisco Unified Communications Manager の PerfMon オブジェクトと PerfMon カウンタ

この項では、Cisco Unified Communications Manager PerfMon オブジェクトと PerfMon カウンタについて説明します。

Cisco Analog Access

Cisco Analog Access オブジェクトは、登録済みの Cisco アナログ アクセス ゲートウェイについての情報を提供します。表 5-3 には、Cisco アナログ アクセス カウンタについての情報が示されています。

表 5-3 Cisco Analog Access

カウンタ	カウンタの説明
OutboundBusyAttempts	このカウンタは、すべてのポートがビジー状態だったときに、Cisco Unified Communications Manager がアナログ アクセス ゲートウェイ 経由でコールを試行した回数の合計を示します。
PortsActive	このカウンタは、現在使用中の（アクティブな）ポートの数を示します。ポートは、そのポートでコールが進行中のときにアクティブ表示されます。
PortsOutOfService	このカウンタは、現在アウト オブ サービスのポートの数を示します。カウンタは、ループスタート トランクおよびグラウンドスタート トランクだけに適用されます。

Cisco Annunciator Device

Cisco Annunciator Device オブジェクトは、登録済みの Cisco アナンシエータ デバイスについての情報を提供します。表 5-4 には、Cisco アナンシエータ カウンタについての情報が示されています。

表 5-4 Cisco Annunciator Device

カウンタ	カウンタの説明
OutOfResources	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager がアナンシエータ デバイスからアナンシエータ リソースの割り当てを試行して、すべてのリソースが使用中などの理由で失敗した回数の合計を表します。
ResourceActive	このカウンタは、アナンシエータ デバイスに対して現在アクティブな（使用中の）アナンシエータ リソースの総数を表します。
ResourceAvailable	このカウンタは、非アクティブで、現時点ではアナンシエータ デバイスでまだ使用可能なリソースの総数を表します。
ResourceTotal	このカウンタは、アナンシエータ デバイスに対して設定されているアナンシエータ リソースの総数を表します。

Cisco CallManager

Cisco CallManager オブジェクトは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているコール、アプリケーション、デバイスについての情報を提供します。表 5-5 には、Cisco CallManager カウンタについての情報が示されています。

表 5-5 Cisco CallManager

カウンタ	カウンタの説明
AnnunciatorOutOfResources	このカウンタは、使用可能なアナンシエータ リソースがなかった場合に、Cisco Unified Communications Manager が Cisco Unified Communications Manager に登録されているリソースからアナンシエータ リソースの割り当てを試行した回数の合計を表します。
AnnunciatorResourceActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべてのアナンシエータ デバイスで現在使用されているアナンシエータ リソースの総数を表します。
AnnunciatorResourceAvailable	このカウンタは、非アクティブで、現在使用可能なアナンシエータ リソースの総数を表します。

表 5-5 Cisco CallManager (続き)

カウンタ	カウンタの説明
AnnunciatorResourceTotal	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に現在登録されているすべてのアナウンシエータ デバイスから提供されているアナウンシエータ リソースの総数を表します。
AuthenticatedCallsActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager で現在アクティブな (使用中の) 認証済みコールの数を示します。認証済みコールとは、コールに関係するすべてのエンドポイントが認証されているコールを意味します。認証済み電話機は、Transport Layer Security (TLS; トランスポート レイヤ セキュリティ) 認証された Skinny プロトコル シグナリングを Cisco Unified Communications Manager で使用します。
AuthenticatedCallsCompleted	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager を介して接続された後で接続解除された認証済みコールの数を表します。認証済みコールとは、コールに関係するすべてのエンドポイントが認証されているコールを意味します。認証済み電話機は、TLS 認証された Skinny プロトコル シグナリングを Cisco Unified Communications Manager で使用します。
AuthenticatedPartiallyRegisteredPhone	このカウンタは、部分的に登録された認証済み SIP 電話機の数を表します。
AuthenticatedRegisteredPhones	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されている認証済み電話機の総数を表します。認証済み電話機は、TLS 認証された Skinny プロトコル シグナリングを Cisco Unified Communications Manager で使用します。
BRChannelsActive	このカウンタは、この Cisco Unified Communications Manager 上で現在アクティブなコールの BRI 音声チャンネルの数を表します。
BRISpansInService	このカウンタは、現在使用可能な BRI スパンの数を表します。
CallManagerHeartBeat	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager のハートビートを表します。このカウンタが増加している場合は、Cisco Unified Communications Manager が稼動中であることを示します。カウンタが増加していない場合は、Cisco Unified Communications Manager がダウンしていることを示します。
CallsActive	このカウンタは、現在使用中の (アクティブな) 音声ストリーミング接続またはビデオ ストリーミング接続の数、つまり、Cisco Unified Communications Manager に接続されている音声パスが実際に存在するコールの数を表します。
CallsAttempted	このカウンタは、試行されたコールの総数を表します。試行されたコールは、どの番号がダイヤルされたか、または宛先に接続されたかに関係なく、電話機がオフフックになるとき、およびオンフックに戻るときに常に発生します。機能操作 (たとえば、転送や会議) 中のコールの試行も、試行されたコールと見なされる場合があります。
CallsCompleted	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager を介して実際に接続された (音声パスまたはビデオ ストリームが確立された) コールの数を表します。この数は、コールが終了したときに増加します。

表 5-5 Cisco CallManager (続き)

カウンタ	カウンタの説明
CallsInProgress	<p>このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager 上で現在進行中の音声コールまたはビデオ コールの数を表します。すべてのアクティブ コールが含まれます。</p> <p>CallsInProgress カウンタは、Skinny Client Control Protocol (SCCP) 電話機として登録されている電話機がオフフックになったときに増加します。その値は電話機がオンフックに戻るまで保持されます。</p> <p>SIP 電話機として登録される Cisco Unified IP Phone 7902、7905、7912、7940、および 7960 の場合は、ダイヤル ソフトキーが押されたときに CallsInProgress カウンタが増加します。</p> <p>その他のすべての SIP を実行している電話機の場合は、最初の数字が押されたときに CallsInProgress カウンタが増加します。</p> <p>進行中のすべての音声コールまたはビデオ コールが接続されたときに、CallsInProgress の数は CallsActive の数を表します。電話機がオンフックに戻ったときに、カウンタは 1 つ減少します。</p>
CM_MediaTermPointsRequestsThrottled	<p>このカウンタは、制御のために拒否された Media Termination Point (MTP; メディアターミネーションポイント) リソース要求の総数を表します (MTP が Cisco CallManager サービス パラメータである MTP and Transcoder Resource Throttling Percentage で指定された設定済みの制御比率を超えて使用されていたため、この MTP からのリソースを割り当てることができませんでした)。このカウンタは、この Cisco Unified Communications Manager (Cisco Unified CM) ノード上の MTP が要求され、その要求が MTP 制御によって拒否されるたびに増分します。カウンタの値は、Cisco CallManager サービスが開始されてから現在までの合計を反映しています。</p>
CM_TranscoderRequestsThrottled	<p>このカウンタは、制御のために拒否されたトランスコーダ リソース要求の総数を表します (トランスコーダが Cisco CallManager サービス パラメータである MTP and Transcoder Resource Throttling Percentage で指定された設定済みの制御比率を超えて使用されていたため、このトランスコーダからのリソースを割り当てることができませんでした)。このカウンタは、この Cisco Unified Communications Manager (Cisco Unified CM) ノード上のトランスコーダが要求され、その要求がトランスコーダ制御によって拒否されるたびに増分します。カウンタの値は Cisco CallManager サービスが開始されてから現在までの合計を反映しています。</p>
EncryptedCallsActive	<p>このカウンタは、この Cisco Unified Communications Manager で現在アクティブな (使用中の) 暗号化済みコールの数を示します。暗号済みコールとは、コールに関係するすべてのエンドポイントが暗号化されているコールを意味します。</p>
EncryptedCallsCompleted	<p>このカウンタは、この Cisco Unified Communications Manager を介して接続された後で接続解除された暗号化済みコールの数を表します。暗号済みコールとは、コールに関係するすべてのエンドポイントが暗号化されているコールを意味します。</p>
EncryptedPartiallyRegisteredPhones	<p>このカウンタは、部分的に登録された暗号化済み SIP 電話機の数を表します。</p>
EncryptedRegisteredPhones	<p>このカウンタは、この Cisco Unified Communications Manager に登録されている暗号化済み電話機の総数を表します。</p>
FXOPortsActive	<p>このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager 上で現在使用中の (アクティブな) FXO ポートの数を表します。</p>

表 5-5 Cisco CallManager (続き)

カウンタ	カウンタの説明
FXOPortsInService	このカウンタは、システムで現在使用可能な FXO ポートの数を表します。
FXSPortsActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager 上で現在使用中の (アクティブな) FXS ポートの数を表します。
FXSPortsInService	このカウンタは、システムで現在使用可能な FXS ポートの数を表します。
HuntListsInService	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager で現在イン サービスのハントリストの数を表します。
HWConferenceActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に現在登録されているすべてのハードウェア会議ブリッジデバイスから提供されているハードウェア会議リソースの総数を表します。
HWConferenceCompleted	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager から割り当てられたハードウェア会議ブリッジ (Cisco Catalyst 6000、Cisco Catalyst 4000、Cisco VG200、Cisco シリーズ 26xx、36xx などのハードウェアベースの会議デバイス) を使用して完了した会議の総数を表します。つまり、会議ブリッジは割り当てられて、開放されています。会議は、最初のコールがブリッジに接続されたときにアクティブになります。会議は、最後のコールがブリッジから接続解除されたときに完了します。
HWConferenceOutOfResources	このカウンタは、使用可能なハードウェア会議リソースがなかった場合に、Cisco Unified Communications Manager が Cisco Unified Communications Manager に登録されているリソースからハードウェア会議リソースの割り当てを試行した回数の合計を表します。
HWConferenceResourceActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべてのハードウェア会議デバイス (Cisco Catalyst 6000、Catalyst 4000、Cisco VG200、Cisco シリーズ 26xx、36xx など) 上で使用中の会議リソースの総数を表します。1 つ以上のコールがブリッジに接続されている場合、会議はアクティブであると見なされます。
HWConferenceResourceAvailable	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager から割り当てられたすべてのハードウェア会議デバイス (Cisco Catalyst 6000、Catalyst 4000、Cisco VG200、Cisco シリーズ 26xx、36xx など) に割り当て可能で完了した使用されていないハードウェア会議リソースの数を表します。つまり、会議ブリッジは割り当てられて、開放されています。会議は、最初のコールがブリッジに接続されたときにアクティブになります。会議は、最後のコールがブリッジから接続解除されたときに完了します。
HWConferenceResourceTotal	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべてのハードウェア会議デバイス上のアクティブな会議の数を表します。
InitializationState	<p>このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager の現在の初期化の状態を表します。Cisco Unified Communications Manager には、初期化の状態を表す次の値があります。</p> <p>1 : Database、2 : Regions、3 : Locations、4 : QoS Policy、5 : Time Of Day、6 : AAR Neighborhoods、7 : Digit Analysis、8 : Route Plan、9 : Call Control、10 : RSVP Session Manager、11 : Supplementary Services、12 : Directory、13 : SDL Link、14 : Device、100 : Initialization Complete</p> <p>このカウンタを使用しても、すべての状態が表示されるわけではありません。このカウンタはエラーの発生を示すものではなく、単純に、パフォーマンス モニタのリフレッシュ期間内に状態が初期化され完了したことを示すものです。</p>

表 5-5 Cisco CallManager (続き)

カウンタ	カウンタの説明
LocationOutOfResources	このカウンタは、その場所を経由したコールが帯域幅不足のために失敗した回数の合計を表します。
MOHMulticastResourceActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべての MOH サーバで現在使用中の (アクティブな) マルチキャスト MOH リソースの総数を表します。
MOHMulticastResourceAvailable	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべての MOH サーバ上の使用されていないアクティブなマルチキャスト MOH 接続の総数を表します。
MOHOutOfResources	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべての MOH サーバ上で使用可能なすべてのリソースがすでにアクティブであった場合に、Media Resource Manager が MOH リソースの割り当てを試行した回数の合計を表します。
MOHTotalMulticastResources	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に現在登録されているすべての MOH サーバから提供されているマルチキャスト MOH リソースまたはマルチキャスト MOH 接続の総数を表します。
MOHTotalUnicastResources	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に現在登録されているすべての MOH サーバから提供されているユニキャスト MOH リソースまたはユニキャスト MOH ストリームの総数を表します。各 MOH ユニキャスト リソースは、1 つのストリームを使用します。
MOHUnicastResourceActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべての MOH サーバで現在使用中の (アクティブな) ユニキャスト MOH リソースの総数を表します。各 MOH ユニキャスト リソースは、1 つのストリームを使用します。
MOHUnicastResourceAvailable	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべての MOH サーバで現在使用可能なユニキャスト MOH リソースの総数を表します。各 MOH ユニキャスト リソースは、1 つのストリームを使用します。
MTPOutOfResources	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が Cisco Unified Communications Manager に登録されている 1 つの MTP デバイスから MTP リソースの割り当てを試行して失敗した回数の合計を表します。これは、MTP として動作する使用可能なトランスコーダがなかったことを意味しています。
MTPResourceActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべての MTP デバイス上で現在使用中の (アクティブな) MTP リソースの総数を表します。各 MTP リソースは、2 つのストリームを使用します。使用中の MTP は、コールで使用するために割り当てられている 1 つの MTP リソースを表します。
MTPResourceAvailable	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべての MTP デバイス上に割り当て可能な、現在使用されていない MTP リソースの総数を表します。各 MTP リソースは、2 つのストリームを使用します。使用中の MTP は、コールで使用するために割り当てられている 1 つの MTP リソースを表します。
MTPResourceTotal	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に現在登録されているすべての MTP デバイスから提供されているメディアターミネーションポイント (MTP) リソースの総数を表します。

表 5-5 Cisco CallManager (続き)

カウンタ	カウンタの説明
MTP_RequestsThrottled	このカウンタは、制御のために拒否されたメディアターミネーションポイント (MTP) リソース要求の総数を表します (MTP が Cisco CallManager サービスパラメータである MTP and Transcoder Resource Throttling Percentage で指定された設定済みの制御比率を超えて使用されていたため、この MTP からリソースを割り当てることができませんでした)。このカウンタは、この MTP からリソースが要求され、その要求が制御によって拒否されるたびに増分します。このカウンタの値は、MTP デバイスが Cisco CallManager サービスに登録されてから現在までの合計を反映しています。
PartiallyRegisteredPhone	このカウンタは、部分的に登録された SIP を実行している電話機の数を表します。
PRIChannelsActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager 上でアクティブなコールの PRI 音声チャンネルの数を表します。
PRIspansInService	このカウンタは、現在使用可能な PRI スパンの数を表します。
RegisteredAnalogAccess	このカウンタは、システムに登録されている、登録済み Cisco アナログアクセスゲートウェイの数を表します。カウントには、Cisco アナログアクセスポートの数は含まれません。
RegisteredHardwarePhones	このカウンタは、現在システムに登録されている Cisco ハードウェア IP Phone (Cisco Unified IP Phone 7960、7940、7910 など) の数を表します。
RegisteredMGCPGateway	このカウンタは、現在システムに登録されている MGCP ゲートウェイの数を表します。
RegisteredOtherStationDevices	このカウンタは、現在システムに登録されている Cisco ハードウェア IP Phone 以外の端末デバイス (Cisco IP SoftPhone、CTI ポート、CTI ルートポイント、Cisco ボイスメールポートなど) の数を表します。
SIPLineServerAuthorizationChallenges	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager サーバが SIP を実行している電話機に対して発行した着信 SIP 要求の認証確認の回数を表します。認証確認は、ダイジェスト認証が有効な SIP を実行している電話機から Cisco Unified Communications Manager に SIP 回線要求を送信したときに発生します。
SIPLineServerAuthorizationFailures	このカウンタは、SIP 電話機から Cisco Unified Communications Manager サーバに対する着信 SIP 要求の認証確認の失敗回数を表します。認証の失敗は、ダイジェスト認証が有効な SIP 電話機から Cisco Unified Communications Manager にクレデンシャルが不正な SIP 回線要求を送信したときに発生します。
SIPTrunkAuthorization	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が SIP トランクに対して発行した着信 SIP 要求のアプリケーションレベルの認証チェックの回数を表します。アプリケーションレベルの認証チェックは、Cisco Unified Communications Manager が、着信 SIP 要求と、Cisco Unified CM の管理の [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] ウィンドウのアプリケーションレベルの設定を比較したときに発生します。
SIPTrunkAuthorizationFailures	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager SIP トランクで発生した着信 SIP 要求のアプリケーションレベルの認証の失敗回数を表します。アプリケーションレベルの認証の失敗は、Cisco Unified Communications Manager が、着信 SIP 要求と、Cisco Unified CM の管理の [SIP トランクセキュリティプロファイルの設定 (SIP Trunk Security Profile Configuration)] ウィンドウのアプリケーションレベルの認証設定を比較し、そのウィンドウ上の 1 つ以上の SIP 機能に対する認証が許可されていないことを検出した場合に発生します。

表 5-5 Cisco CallManager (続き)

カウンタ	カウンタの説明
SIPTrunkServerAuthenticationChallenges	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が SIP トランクに対して発行した着信 SIP 要求の認証確認の回数を表します。認証確認は、ダイジェスト認証が有効な SIP トランクから Cisco Unified Communications Manager に SIP 要求を送信したときに発生します。
SIPTrunkServerAuthenticationFailures	このカウンタは、SIP トランクから Cisco Unified Communications Manager に対する着信 SIP 要求で発生した認証確認の失敗回数を表します。認証の失敗は、ダイジェスト認証が有効な SIP トランクから Cisco Unified Communications Manager にクレデンシャルが不正な SIP 要求を送信したときに発生します。
SWConferenceActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべてのソフトウェア会議デバイス上のアクティブな会議の数を表します。
SWConferenceCompleted	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager から割り当てられたソフトウェア会議ブリッジを使用して完了した会議の総数を表します。つまり、会議ブリッジは割り当てられて、開放されています。会議は、最初のコールがブリッジに接続されたときにアクティブになります。会議は、最後のコールがブリッジから接続解除されたときに完了します。
SWConferenceOutOfResources	このカウンタは、使用可能なソフトウェア会議リソースがなかった場合に、Cisco Unified Communications Manager が Cisco Unified Communications Manager に登録されているリソースからソフトウェア会議リソースの割り当てを試行した回数の合計を表します。カウンタには、新規の参加者を既存の会議に追加することに失敗した試行回数が含まれます。
SWConferenceResourceActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべてのソフトウェア会議デバイス上で使用中の会議リソースの総数を表します。1 つ以上のコールがブリッジに接続されている場合、会議はアクティブであると見なされます。1 つのリソースは 1 つのストリームと同等です。
SWConferenceResourceAvailable	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に対して同時に開始できる新規のソフトウェアベースの会議の数を表します。新規の各会議に対して最低でも 3 つのストリームが使用可能である必要があります。1 つのリソースは 1 つのストリームと同等です。
SWConferenceResourceTotal	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に現在登録されているすべてのソフトウェア会議ブリッジ デバイスから提供されているソフトウェア会議リソースの総数を表します。
SystemCallsAttempted	このカウンタは、サーバから発信されたコールと Unity Message Waiting Indicator (MWI; メッセージ待機インジケータ) に試行されたコールの総数を表します。
T1ChannelsActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager 上でアクティブなコールの T1 CAS 音声チャネルの数を表します。
T1SpansInService	このカウンタは、現在使用可能な T1 CAS スパンの数を表します。
TLSConnectedSIPTrunks	このカウンタは、トランスポート レイヤ セキュリティ (TLS) で設定および接続された SIP トランクの数を表します。
TLSConnectedWSM	このカウンタは、トランスポート レイヤ セキュリティ (TLS) で設定され、Motorola WSM に接続された WSM コネクタの数を表します。
TranscoderOutOfResources	このカウンタは、使用可能なトランスコーダ リソースがなかった場合に、Cisco Unified Communications Manager が Cisco Unified Communications Manager に登録されているトランスコーダ デバイスから割り当てを試行した回数の合計を表します。

表 5-5 Cisco CallManager (続き)

カウンタ	カウンタの説明
TranscoderResourceActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべてのトランスコーダ デバイス上で使用中のトランスコーダの総数を表します。使用中のトランスコーダは、コールで使用するために割り当てられている 1 つのトランスコーダ リソースを表します。各トランスコーダ リソースは、2 つのストリームを使用します。
TranscoderResourceAvailable	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべてのトランスコーダ デバイスに割り当て可能な、現在使用されていないトランスコーダの総数を表します。各トランスコーダ リソースは、2 つのストリームを使用します。
TranscoderResourceTotal	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に現在登録されているすべてのトランスコーダ デバイスから提供されているトランスコーダ リソースの総数を表します。
VCBConferenceActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべてのビデオ会議ブリッジ デバイス上のアクティブなビデオ会議の総数を表します。
VCBConferenceAvailable	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべてのビデオ会議ブリッジ デバイス上の新規ビデオ会議の総数を表します。
VCBConferenceCompleted	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager から割り当てられたビデオ会議ブリッジを使用して完了したビデオ会議の総数を表します。つまり、会議ブリッジは割り当てられて、開放されています。会議は、最初のコールがブリッジに接続されたときにアクティブになります。会議は、最後のコールがブリッジから接続解除されたときに完了します。
VCBConferenceTotal	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべてのビデオ会議ブリッジ デバイス上でサポートされているビデオ会議の総数を表します。
VCBOutOfConferences	このカウンタは、使用可能なビデオ会議リソースがなかった場合に、Cisco Unified Communications Manager が Cisco Unified Communications Manager に登録されているリソースからビデオ会議リソースの割り当てを試行した回数の合計を表します。
VCBOutOfResources	このカウンタは、失敗した新規ビデオ会議要求の総数を表します。設定されている数の会議がすでに使用中であるなどの理由で、会議の要求が失敗する場合があります。
VCBResourceActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべてのビデオ会議デバイスで現在使用されているビデオ会議リソースの総数を表します。
VCBResourceAvailable	このカウンタは、非アクティブで、現在使用可能なビデオ会議リソースの総数を表します。
VCBResourceTotal	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に現在登録されているすべてのビデオ会議ブリッジ デバイスから提供されているビデオ会議リソースの総数を表します。
VideoCallsActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべてのビデオ会議ブリッジ デバイス上のアクティブなビデオ ストリーミング接続を持つアクティブなビデオ コールの総数を表します。
VideoCallsCompleted	このカウンタは、ビデオ ストリームに実際に接続され、その後開放されたビデオ コールの数を表します。

表 5-5 Cisco CallManager (続き)

カウンタ	カウンタの説明
VideoOutOfResources	このカウンタは、使用可能なビデオストリーミング リソースがなかった場合に、Cisco Unified Communications Manager が Cisco Unified Communications Manager に登録されているビデオ会議ブリッジデバイスの 1 つから割り当てを試行した回数の合計を表します。
XCODE_RequestsThrottled	このカウンタは、制御のために拒否されたトランスコーダ リソース要求の総数を表します (トランスコーダが Cisco CallManager サービス パラメータである MTP and Transcoder Resource Throttling Percentage で指定された設定済みの制御比率を超えて使用されていたため、このトランスコーダからのリソースを割り当てることができませんでした)。このカウンタは、このトランスコーダからリソースが要求され、その要求が制御によって拒否されるたびに増分します。このカウンタの値は、トランスコーダ デバイスが Cisco CallManager サービスに登録されてから現在までの合計を反映しています。

Cisco CallManager External Call Control

Cisco CallManager External Call Control には、外部コール制御機能をサポートするために追加されたカウンタに関する情報を提供する機能があります。表 5-6 に、External Call Control カウンタに関する情報を示します。

表 5-6 Cisco CallManager External Call Control

カウンタ	カウンタの説明
Cisco Unified Communication Manager (Cisco CallManager) オブジェクト	
ExternalCallControlEnabledCallsAttempted	このカウンタは、外部コール制御機能を有効にしたデバイスに対するコールの合計数を示します。これは、Cisco CallManager サービスが最後に再起動された後に、代行受信を有効にしたパターンまたは DN に対して受信したすべてのコールの累積数です。
ExternalCallControlEnabledCallsCompleted	このカウンタは、外部コール制御機能を有効にしたデバイスに接続したコールの合計数を示します。これは、Cisco CallManager サービスが最後に再起動された後に、代行受信を有効にしたパターンまたは DN に対して受信したすべてのコールの累積数です。
ExternalCallControlEnabledFailureTreatmentApplied	このカウンタは、外部コール制御プロファイルに定義されているエラー処理 (許可または拒否など) に基づいて、クリアまたはルーティングされたコールの合計数を示します。
External Call Control オブジェクト	
PDPServersTotal	このカウンタでは、Cisco Unified CM の管理ページで設定されているすべての外部コール制御プロファイルの PDP サーバの合計数を定義します。このカウンタは新しい PDP サーバが追加されると増加し、PDP サーバが削除されると減少します。
PDPServersInService	このカウンタでは、インサービス (アクティブ) の PDP サーバの合計数を定義します。
PDPServersOutOfService	このカウンタでは、PDP サーバがインサービスからアウトオブサービスに移行した回数の合計数を定義します。これは、Cisco CallManager サービスが最後に再起動された後にアウトオブサービスになった PDP サーバの累積数です。

表 5-6 Cisco CallManager External Call Control (続き)

カウンタ	カウンタの説明
ConnectionsActiveToPDPServer	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が PDP サーバとの間に確立した（現在アクティブな）接続の合計数を示します。
ConnectionsLostToPDPServer	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager および PDP サーバ間のアクティブな接続が解除された合計回数を示します。これは、Cisco CallManager サービスが最後に再起動された後の累積数です。

Cisco CallManager SAF

Cisco SAF Client オブジェクトは、この Cisco SAF Client オブジェクトは、各ノードに固有の SAF カウンタに関する情報を提供します。表 5-7 に、Cisco SAF Client オブジェクト カウンタに関する情報を示します。

表 5-7 Cisco CallManager SAF Client オブジェクト

カウンタ	カウンタの説明
SAFConnectionsSucceeded (範囲は 0 ~ 2)	この Unified CM ノードで現在アクティブな SAF クライアント接続の合計数。
SAFFConnectionsFailed (範囲は 0 ~ 2)	この Unified CM ノードで失敗した SAF クライアント接続の合計数。失敗した接続は、SAF フォワーダに登録していない接続です。



(注) Cisco Unified CM ノードの再起動によってカウンタはリセットされます。

詳細については、『*Real-Time Monitoring Tool Guide*』を参照してください。

Cisco CallManager System Performance

Cisco CallManager System Performance オブジェクトは、Cisco Unified Communications Manager についてのシステム パフォーマンス情報を提供します。表 5-8 には、Cisco CallManager System Performance カウンタについての情報が示されています。

表 5-8 Cisco CallManager System Performance

カウンタ	カウンタの説明
AverageExpectedDelay	このカウンタは、着信メッセージを処理する前の現在の平均予測遅延を表します。
CallsRejectedDueToICTThrottling	このカウンタは、Cisco CallManager サービスの開始以降に、Intercluster Trunk (ICT; クラスタ間トランク) コール スロットリングのために拒否されたコールの総数を表します。5 秒あたり 140 コールのしきい値制限に達すると、ICT は新しいコールの制御 (拒否) を開始します。ICT コール スロットリングが発生する原因の 1 つは、ICT を経由するコールがルート ループ状態になることです。
CallThrottlingGenericCounter3	このカウンタは、コール スロットリングで使用される汎用カウンタを表します。
CodeRedEntryExit	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が Code Red 状態 (コールスロットリング モード) を開始したか、または終了したかを表します。有効な値は、0 (Exit) および 1 (Entry) です。

表 5-8 Cisco CallManager System Performance (続き)

カウンタ	カウンタの説明
CodeYellowEntryExit	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が Code Yellow 状態 (コールスロットリング モード) を開始したか、または終了したかを表します。有効な値は、0 (Exit) および 1 (Entry) です。
EngineeringCounter1	Cisco Engineering Special ビルドによる指示がない限り、このカウンタは使用しないでください。シスコは、診断の目的でこのカウンタの情報を使用します。
EngineeringCounter2	Cisco Engineering Special ビルドによる指示がない限り、このカウンタは使用しないでください。シスコは、診断の目的でこのカウンタの情報を使用します。
EngineeringCounter3	Cisco Engineering Special ビルドによる指示がない限り、このカウンタは使用しないでください。シスコは、診断の目的でこのカウンタの情報を使用します。
EngineeringCounter4	Cisco Engineering Special ビルドによる指示がない限り、このカウンタは使用しないでください。シスコは、診断の目的でこのカウンタの情報を使用します。
EngineeringCounter5	Cisco Engineering Special ビルドによる指示がない限り、このカウンタは使用しないでください。シスコは、診断の目的でこのカウンタの情報を使用します。
EngineeringCounter6	Cisco Engineering Special ビルドによる指示がない限り、このカウンタは使用しないでください。シスコは、診断の目的でこのカウンタの情報を使用します。
EngineeringCounter7	Cisco Engineering Special ビルドによる指示がない限り、このカウンタは使用しないでください。シスコは、診断の目的でこのカウンタの情報を使用します。
EngineeringCounter8	Cisco Engineering Special ビルドによる指示がない限り、このカウンタは使用しないでください。シスコは、診断の目的でこのカウンタの情報を使用します。
QueueSignalsPresent 1-High	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager キューの高優先順位信号の数を表します。高優先順位信号には、主に、タイムアウト イベント、内部 Cisco Unified Communications Manager キープアライブ、特定のゲートキーパー イベント、内部プロセスの作成などのイベントが含まれています。多数の高優先順位イベントは、Cisco Unified Communications Manager のパフォーマンスを低下させ、コール接続の遅延やダイヤル トーン消失の原因となります。このカウンタを QueueSignalsProcessed 1-High カウンタと併用して、Cisco Unified Communications Manager 上の処理の遅延を判別します。
QueueSignalsPresent 2-Normal	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager キューの通常優先順位信号の数を表します。通常優先順位信号には、主に、コール処理機能、キー操作、オンフックとオフフックの通知などのイベントが含まれています。多数の通常優先順位のイベントは、Cisco Unified Communications Manager のパフォーマンスを低下させ、ダイヤル トーンの遅延、コール接続の遅延、またはダイヤル トーンの消失の原因となる場合があります。このカウンタを QueueSignalsProcessed 2-Normal カウンタと併用して、Cisco Unified Communications Manager 上の処理の遅延を判別します。通常優先順位信号が処理を開始する前に、高優先順位信号を完了する必要があることに注意してください。したがって、高優先順位カウンタを確認し、遅延の可能性について正確な状況を把握する必要があります。
QueueSignalsPresent 3-Low	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager キューの低優先順位信号の数を表します。低優先順位信号には、主に、端末デバイスの登録 (初期端末登録要求メッセージは除く) などのイベントが含まれています。このキュー内の多数の信号は、特に、デバイス登録遅延のイベントの原因となります。
QueueSignalsPresent 4-Lowest	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager キューの最低優先順位信号の数を表します。最低優先順位信号には、主に、デバイス登録中の初期端末登録要求メッセージなどのイベントが含まれています。このキュー内の多数の信号は、特に、デバイス登録遅延のイベントの原因となります。

表 5-8 Cisco CallManager System Performance (続き)

カウンタ	カウンタの説明
QueueSignalsProcessed 1-High	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager によって 1 秒間隔で処理される高優先順位信号の数を表します。このカウンタを QueueSignalsPresent 1-High カウンタと併用して、このキューの処理の遅延を判別します。
QueueSignalsProcessed 2-Normal	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager によって 1 秒間隔で処理される通常優先順位信号の数を表します。このカウンタを QueueSignalsPresent 2-Normal カウンタと併用して、このキューの処理の遅延を判別します。高優先順位信号は通常優先順位信号の前に処理されることに注意してください。
QueueSignalsProcessed 3-Low	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager によって 1 秒間隔で処理される低優先順位信号の数を表します。このカウンタを QueueSignalsPresent 3-Low カウンタと併用して、このキューの処理の遅延を判別します。処理される信号の数は、この時間間隔でデバイス登録アクティビティが処理される量の指標となります。
QueueSignalsProcessed 4-Lowest	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager によって 1 秒間隔で処理される最低優先順位信号の数を表します。このカウンタを QueueSignalsPresent 4-Lowest カウンタと併用して、このキューの処理の遅延を判別します。処理される信号の数は、この時間間隔で Cisco Unified Communications Manager 登録プロセスを開始したデバイスの数の指標となります。
QueueSignalsProcessed Total	このカウンタは、高、通常、低、最低のすべてのキュー レベルについて、それぞれ 1 秒間に Cisco Unified Communications Manager によって処理されるすべてのキュー信号の合計を表します。
SkinnyDevicesThrottled	このカウンタは、制御される Skinny デバイスの総数を表します。Skinny デバイスが生成したイベントの総数が、設定されている最大しきい値 (デフォルト値は 2000 イベント) を 5 秒間隔内で上回ったとき、Skinny デバイスは制御されます (シャットダウンと再登録を求められます)。
ThrottlingSampleActivity	このカウンタは、設定されたサンプル サイズのうち、averageExpectedDelay の値がゼロではないサンプルがいくつあるかを示します。このカウンタは、averageExpectedDelay の値が 0 のサンプルがあった場合にリセットされます。このプロセスは、サンプルのバッチごとに繰り返されます。バッチは、設定されたサンプル サイズを表します。
TotalCodeYellowEntry	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager コール処理が Code Yellow 状態に入る回数を表します。このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager プロセス開始時から累積されます。

Cisco CTIManager

Cisco CTI Manager オブジェクトは、Cisco CTI Manager についての情報を提供します。表 5-9 には、Cisco CTIManager カウンタについての情報が示されています。

表 5-9 Cisco CTI Manager

カウンタ	カウンタの説明
CcmLinkActive	このカウンタは、アクティブな Cisco Unified Communications Manager リンクの総数を表します。該当する場合、CTI Manager は、1 つのクラスタ内のすべてのアクティブなサーバへのリンクを維持します。
CTIConnectionActive	このカウンタは、現在 CTIManager に接続されている CTI クライアントの総数を表します。このカウンタは、新しい接続が確立されると 1 つ増加し、接続が開放されると 1 つ減少します。CTIManager の MaxCTIConnections サービスパラメータは、アクティブな接続の最大数を設定します。
DevicesOpen	このカウンタは、CTI アプリケーションが制御またはモニタする Cisco Unified Communications Manager に設定されているデバイスの総数を表します。デバイスには、ハードウェア IP Phone、CTI ポート、CTI ルートポイントなどがあります。
LinesOpen	このカウンタは、CTI アプリケーションを制御またはモニタする Cisco Unified Communications Manager に設定されている回線の総数を表します。
QbeVersion	このカウンタは、CTIManager が使用する Quick Buffer Encoding (QBE) インターフェイスのバージョン番号を表します。

Cisco Dual-Mode Mobility

Cisco Dual-Mode Mobility オブジェクトは、Cisco Unified Communications Manager のデュアルモード モビリティ アプリケーションについての情報を提供します。表 5-10 には、Cisco Dual-Mode Mobility カウンタについての情報が示されています。

表 5-10 Cisco Dual-Mode Mobility

カウンタ	カウンタの説明
CallsAnchored	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager 内で固定されたデュアルモード電話機で送信または受信するコールの数を表します。このカウンタは、デュアルモード電話機でコールが送信または受信されたときに増加します。デュアルモード電話機から別のデュアルモード電話機を呼び出した場合、カウンタは 2 つ増加します。
DMMSRegistered	このカウンタは、Wireless LAN (WLAN; 無線 LAN) に登録された Dual-mode Mobile Station (DMMS) 加入者の数を表します。
FollowMeAborted	このカウンタは、失敗した follow-me 操作の数を表します。
FollowMeAttempted	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が試行した follow-me 操作の数を表します。このカウンタは、Wireless Service Manager (WSM) からの SIP 302 (一時的に移動) メッセージが受信され、Cisco Unified Communications Manager が WLAN の DMMS にコールをリダイレクトしたときに増加します。
FollowMeCompleted	このカウンタは、正常に完了した follow-me 操作の数を表します。このカウンタは、WLAN 内の DMMS がコールに回答し、発信側デバイスとのメディア (音声パス) が正常に確立されたときに増加します。
FollowMeInProgress	このカウンタは、現在進行中の follow-me 操作の数を表します。このカウンタは、follow-me 操作が試行されたときに増加し、follow-me 操作が中断または完了したときに減少します。

表 5-10 Cisco Dual-Mode Mobility (続き)

カウンタ	カウンタの説明
H1HandOutAttempted	このカウンタは、デュアルモード電話機が試行した H1 hand-out 操作の数を表します。このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が DMMS から H1 の番号へのコールを処理したときに増加します。
H1HandOutCompleted	このカウンタは、正常に完了した H1 hand-out 操作の数を表します。このカウンタは、WLAN の DMMS がメディア（音声パス）を正常に再確立したときに増加します。
H2HandOutCompleted	このカウンタは、正常に完了した H2 hand-out 操作の数を表します。このカウンタは、WLAN の DMMS がメディア（音声パス）を正常に再確立したときに増加します。
H2HandOutsAttempted	このカウンタは、デュアルモード電話機が試行した H2 hand-out 操作の数を表します。このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が DMMS から H2 の番号へのコールを受信したときに増加します。
HandInAborted	このカウンタは、失敗した hand-in 操作の数を表します。
HandInAttempted	このカウンタは、デュアルモード電話機が試行した hand-in 操作の数を表します。
HandInCompleted	このカウンタは、正常に完了した hand-in 操作の数を表します。このカウンタは、WLAN の DMMS がメディア（音声パス）を正常に再確立したときに増加します。
HandInInProgress	このカウンタは、現在進行中の hand-in 操作の数を表します。このカウンタは、hand-in 操作が試行されたときに増加し、hand-in 操作が中断または完了したときに減少します。
HandOutAborted	このカウンタは、失敗した hand-out 操作の数を表します。
HandOutInProgress	このカウンタは、現在進行中の H1 および H2 hand-out 操作の数を表します。このカウンタは、H1 または H2 hand-out 操作が試行されたときに増加し、H1 または H2 hand-out 操作が中断または完了したときに減少します。

Cisco Extension Mobility

Cisco Extension Mobility オブジェクトは、エクステンション モビリティ アプリケーションについての情報を提供します。表 5-11 には、Cisco Extension Mobility カウンタについての情報が示されています。

表 5-11 Cisco Extension Mobility アプリケーション

カウンタ	カウンタの説明
RequestsHandled	このカウンタは、Cisco CallManager サービスの最後の再起動以降にエクステンション モビリティ アプリケーションが処理した HTTP 要求の総数を表します。標準的なログインは、2 つの HTTP 要求で構成されています。1 つは、デバイスの初期ログイン状態の照会、もう 1 つは、デバイス上のユーザへのログインです。同様に、標準的なログアウトも 2 つの HTTP 要求になります。
RequestsInProgress	このカウンタは、エクステンション モビリティ アプリケーションが現在処理している HTTP 要求の数を表します。標準的なログインは、2 つの HTTP 要求で構成されています。1 つは、デバイスの初期ログイン状態の照会、もう 1 つは、デバイス上のユーザへのログインです。同様に、標準的なログアウトも 2 つの HTTP 要求になります。
RequestsThrottled	このカウンタは、制御のために失敗したログイン要求またはログアウト要求の総数を表します。

表 5-11 Cisco Extension Mobility アプリケーション (続き)

カウンタ	カウンタの説明
LoginsSuccessful	このカウンタは、エクステンション モビリティ サービスを使用して正常に完了したログイン要求の総数を表します。
LogoutsSuccessful	このカウンタは、エクステンション モビリティ サービスを使用して正常に完了したログアウト要求の総数を表します。
Total Login/LogoutRequestsAttempted	このカウンタは、このエクステンション モビリティ サービスを使用して試行されたログイン要求およびログアウト要求の総数を表します。この数には、成功した試行と失敗した試行の両方が含まれます。
Total Number of EMCC Messages	このカウンタは、リモート クラスタから受信した EMCC 要求に関連するメッセージの合計数を示します。
Number of Remote Devices	このカウンタは、現在 EMCC Base Device (EMCC Logged in) を使用している他のクラスタからのデバイスの合計数を示します。
Number of Unknown Remote Users	このカウンタは、クラスタ間エクステンション モビリティ ログイン中に、いずれのリモート クラスタでも見つからなかったユーザの合計数を示します。
Active Inter-cluster Sessions	このカウンタは、現在進行中のクラスタ間 エクステンション モビリティ 要求の合計数を示します。
Total Number of Remote Users	このカウンタは、このクラスタのローカル デバイスを使用し、リモート クラスタにログインした他のクラスタのユーザの合計数を示します。
EMCC Check User Requests Handled	このカウンタは、リモート クラスタから受信した EMCC チェック ユーザ要求の合計数を示します。

Cisco 機能管理ポリシー

Cisco 機能管理ポリシーには、2 つの新しい TFTP 用カウンタに関する情報を提供する機能があります。表 5-12 に、Cisco 機能管理ポリシー機能のカウンタに関する情報を示します。

表 5-12 Cisco 機能管理ポリシー

カウンタ	カウンタの説明
BuildFeaturePolicyCount	構築された FCP ファイルの数を示します
FeaturePolicyChangeNotifications	送信された TCP 変更通知の数を示します

Cisco Gatekeeper

Cisco Gatekeeper オブジェクトは、登録済みの Cisco ゲートキーパー デバイスについての情報を提供します。表 5-13 には、Cisco Gatekeeper デバイス カウンタについての情報が示されています。

表 5-13 Cisco Gatekeeper

カウンタ	カウンタの説明
ACFsReceived	このカウンタは、設定済みゲートキーパーとその代替ゲートキーパーから受信された RAS アドミッション確認メッセージの総数を表します。
ARQsAttempted	このカウンタは、設定済みゲートキーパーとその代替ゲートキーパーを使用して試行された RAS アドミッション要求メッセージの総数を表します。

表 5-13 Cisco Gatekeeper (続き)

カウンタ	カウンタの説明
RasRetries	このカウンタは、設定済みゲートキーパーとその代替ゲートキーパー上のすべての RAS 確認応答メッセージの消失や遅延による再試行回数を表します。
VideoOutOfResources	このカウンタは、帯域幅の不足などが原因で失敗した、設定済みゲートキーパーまたはその代替ゲートキーパーへのビデオストリーム要求の総数を表します。

Cisco H.323

Cisco H.323 オブジェクトは、登録済みの Cisco H.323 デバイスについての情報を提供します。表 5-14 には、Cisco H.323 デバイスのカウンタについての情報が示されています。

表 5-14 Cisco H.323

カウンタ	カウンタの説明
CallsActive	このカウンタは、設定済みの H.323 デバイス上で現在アクティブな（使用中の）ストリーミング接続の数、つまり、接続されている音声パスが実際に存在するコールの数を表します。
CallsAttempted	このカウンタは、デバイス上で試行されたコールの総数を表します。成功したコールの試行と失敗したコールの試行の両方が含まれます。
CallsCompleted	このカウンタは、デバイスから発信され成功したコールの総数を表します。
CallsInProgress	このカウンタは、デバイス上で現在進行中のコールの数を表します。
CallsRejectedDueToICTCallThrottling	このカウンタは、Cisco CallManager サービスの開始以降に、クラスタ間トランク (ICT) コール スロットリングのために拒否されたコールの総数を表します。5 秒あたり 140 コールのしきい値制限に達すると、ICT は新しいコールの制御（拒否）を開始します。ICT コール スロットリングが発生する原因の 1 つは、ICT を経由するコールがルート ループ状態になることです。
VideoCallsActive	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべての H.323 トランク上で現在アクティブな（使用中の）ビデオ ストリーミング接続を持つビデオコールの数、つまり、Cisco Unified Communications Manager 上にビデオストリーミング接続が実際に存在するコールの数を表します。
VideoCallsCompleted	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべての H.323 トランクに対するビデオ ストリームに実際に接続されたビデオコールの数を表します。この数は、コールが終了したときに増加します。

Cisco Hunt Lists

Cisco Hunt Lists オブジェクトは、Cisco Unified CM の管理で定義されているハント リストについての情報を提供します。表 5-15 には、Cisco hunt Lists カウンタについての情報が示されています。

表 5-15 Cisco Hunt Lists

カウンタ	カウンタの説明
CallsAbandoned	このカウンタは、ハント リストを介して発生し、放棄されたコールの数を表します。放棄されたコールとは、コールに応答する前に発信者が切断したコールです。
CallsActive	このカウンタは、ハント リストを介して発生し、現在アクティブな（使用中の）コールの数を表します。アクティブなコールとは、配布され、応答された、音声パスが接続されているコールを意味します。

表 5-15 Cisco Hunt Lists (続き)

カウンタ	カウンタの説明
CallsBusyAttempts	このカウンタは、回線グループまたはルートグループのいずれか（あるいはその両方）のすべてのメンバーがビジー状態だったときに、ハントリストを介して試行されたコールの回数を表します。
CallsInProgress	このカウンタは、ハントリストを介して現在進行中のコールの数を表します。進行中のコールとは、着信呼分配機能によって回線グループまたはルートグループのメンバーへの拡張が試行され、まだ応答されていないコールを意味します。ハントリストメンバーの例としては、回線、端末デバイス、トランクデバイス、トランクデバイスのポートやチャネルがあります。
CallsRingNoAnswer	このカウンタは、ハントリストを介したコールのうち、着信側が呼び出しに回答しなかったコールの総数を表します。
HuntListInService	このカウンタは、特定のハントリストが現在インサービスであるかどうかを指定します。値 0 は、ハントリストがアウトオブサービスであることを示します。値 1 は、ハントリストがインサービスであることを示します。ハントリストがアウトオブサービスになる理由としては、ハントリストが Cisco Unified Communications Manager グループに基づいてプライマリ Cisco Unified Communications Manager 上で実行されていないか、または Cisco Unified CM の管理でハントリストが無効になっていることなどが考えられます。
MembersAvailable	このカウンタは、インサービス ハントリストに属している回線グループとルートグループの、使用可能なメンバーまたはアイドルメンバーの総数を表します。使用可能なメンバーは、現在コールを処理しており、新規のコールを受け入れます。アイドルメンバーは、コールを処理せずに新規のコールを受け入れます。ハントリストメンバーは、ルートグループ、回線グループ、またはそれらの組み合わせで構成することができます。回線グループのメンバーとは、IP Phone またはボイスメールポートの回線のディレクトリ番号を意味します。ルートグループのメンバーとは、ステーションゲートウェイ、トランクゲートウェイ、またはトランクゲートウェイのポートやチャネルを意味します。

Cisco HW Conference Bridge Device

Cisco HW Conference Bridge Device オブジェクトは、登録済みの Cisco ハードウェア会議ブリッジデバイスについての情報を提供します。表 5-16 には、Cisco HW Conference Bridge Device カウンタについての情報が示されています。

表 5-16 Cisco HW Conference Bridge Device

カウンタ	カウンタの説明
HWConferenceActive	このカウンタは、ハードウェア会議ブリッジデバイス上で現在アクティブな（使用中の）会議の数を表します。1つのリソースは1つのストリームを表します。
HWConferenceCompleted	このカウンタは、ハードウェア会議デバイス上に割り当てられ、開放された会議の総数を表します。会議は、最初のコールがブリッジに接続されたときに開始します。会議は、最後のコールがブリッジから接続解除されたときに完了します。
OutOfResources	このカウンタは、ハードウェア会議デバイスから会議リソースの割り当てを試行して、すべてのリソースがすでに使用中であるなどの理由で失敗した回数の合計を表します。
ResourceActive	このカウンタは、このハードウェア会議デバイスに対して現在使用中の（アクティブな）リソースの数を表します。1つのリソースは1つのストリームを表します。

表 5-16 Cisco HW Conference Bridge Device (続き)

カウンタ	カウンタの説明
ResourceAvailable	このカウンタは、非アクティブで、ハードウェア会議デバイスで現在まだ使用可能なリソースの総数を表します。1つのリソースは1つのストリームを表します。
ResourceTotal	このカウンタは、ハードウェア会議ブリッジデバイス用リソースの総数を表します。このカウンタは、ResourceAvailable カウンタと ResourceActive カウンタを合計した数になります。1つのリソースは1つのストリームを表します。

Cisco IP Manager Assistant

Cisco IP Manager Assistant (IPMA) Service オブジェクトは、Cisco Unified Communications Manager Assistant アプリケーションについての情報を提供します。表 5-17 には、Cisco IPMA カウンタについての情報が示されています。

表 5-17 Cisco IP Manager Assistant Service

カウンタ	カウンタの説明
AssistantsActive	このカウンタは、現在アクティブなアシスタント コンソールの数を表します。アクティブなアシスタント コンソールは、アシスタントが Assistant Console デスクトップアプリケーションからログインする場合に存在します。
LinesOpen	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager Assistant アプリケーションによってオープンされた電話回線の数を表します。オープン電話回線は、アプリケーションが CTI からの回線制御を前提としている場合に存在します。
ManagersActive	このカウンタは、Cisco IPMA がサービスを提供しているマネージャの現在の数を表します。
SessionsCurrent	このカウンタは、現在 Cisco Unified Communications Manager Assistant アプリケーションを使用しているマネージャとアシスタントの総数を表します。各マネージャと各アシスタントは、アクティブ セッションを構成します。したがって、1組のマネージャとアシスタントに対して、このカウンタは2つのセッションを反映します。

Cisco Lines

Cisco Lines オブジェクトは、ダイヤルしてデバイスに接続できる Cisco 回線 (ディレクトリ番号) の数を表します。回線は、エンドポイントで終了するすべてのディレクトリ番号を表します。割り当てられたディレクトリ番号は、回線を識別します。Cisco Lines オブジェクトには、デジタルアクセス ゲートウェイまたはアナログアクセス ゲートウェイのパターンなどのワイルドカードを含むディレクトリ番号は含まれていません。

Active カウンタは、回線の状態についてアクティブまたは非アクティブのいずれかを表します。0 は、回線が使用されていないことを示します。数値が 0 より大きい場合、回線がアクティブであることを示します。数値はその回線で現在進行中のコールの数を表します。複数のコールがアクティブである場合、明確な保留状態 (ユーザ保留)、またはネットワーク保留操作 (たとえば、転送が進行中のため転送保留にされている状態) のいずれかの理由で、コールが保留状態であることを示します。これは、任意のデバイスに割り当てられるすべてのディレクトリ番号に適用されます。

Cisco Locations

Cisco Location オブジェクトは、Cisco Unified Communications Manager に定義されている場所についての情報を提供します。表 5-18 には、Cisco Location カウンタについての情報が示されています。

表 5-18 Cisco Locations

カウンタ	カウンタの説明
BandwidthAvailable	このカウンタは、特定の場所の現在の帯域幅を表します。値 0 は、使用可能な帯域幅がないことを示します。
BandwidthMaximum	このカウンタは、特定の場所で使用可能な最大帯域幅を表します。値 0 は、使用可能な帯域幅が無限であることを示します。
CallsInProgress	このカウンタは、特定の Cisco Unified Communications Manager 上で現在進行中のコールの数を表します。
OutOfResources	このカウンタは、その場所を経由した特定の Cisco Unified Communications Manager 上のコールが、帯域幅不足のために失敗した回数の合計を表します。
RSVP AudioReservationErrorCounts	このカウンタは、オーディオ ストリーム内の RSVP 予約エラーの数を表します。
RSVP MandatoryConnectionsInProgress	このカウンタは、必須の RSVP を使用した進行中の接続の数を表します。
RSVP OptionalConnectionsInProgress	このカウンタは、オプションの RSVP を使用した進行中の接続の数を表します。
RSVP TotalCallsFailed	このカウンタは、RSVP 予約の失敗によって失敗したコールの総数を表します。
RSVP VideoCallsFailed	このカウンタは、RSVP 予約の失敗によって失敗したビデオ コールの数を表します。
RSVP VideoReservationErrorCounts	このカウンタは、ビデオ ストリーム内の RSVP 予約エラーの数を表します。
VideoBandwidthAvailable	このカウンタは、ビデオ会議を開始した人がいる場所のビデオで現在使用可能な帯域幅を表します。値 0 は、使用可能な帯域幅がないことを示します。
VideoBandwidthMaximum	このカウンタは、ビデオ会議を開始した人がいる場所のビデオで使用可能な最大帯域幅を表します。値 0 は、ビデオに割り当てられている帯域幅がないことを示します。
VideoOutOfResources	このカウンタは、ビデオ会議を開始した人がいる場所で失敗したビデオストリーム要求（主に帯域幅不足が原因）の総数を表します。

Cisco Media Streaming Application

Cisco IP Voice Media Streaming Application オブジェクトは、登録済みの MTP、MOH サーバ、会議ブリッジサーバ、およびアナウンサーについての情報を提供します。表 5-19 には、Cisco IP Voice Media Streaming Application カウンタについての情報が示されています。



(注)

デバイス プールに関連付けられている Cisco Unified Communications Manager グループの Cisco Unified Communications Manager ごとに 1 つのオブジェクトが存在します。アナウンサー デバイスはそのデバイス プールを使用するように設定されています。

表 5-19 Cisco Media Streaming Application

カウンタ	カウンタの説明
ANNConnectionsLost	このカウンタは、Cisco IP Voice Media Streaming Application の最後の再起動以降に Cisco Unified Communications Manager 接続が失われた回数の合計を表します。
ANNConnectionState	このカウンタは、アナウンシエータに関連付けられている各 Cisco Unified Communications Manager について、Cisco Unified Communications Manager への現在の登録状態を表します。0 は、Cisco Unified Communications Manager への登録がないことを示します。1 は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager への登録を示します。2 は、セカンダリ Cisco Unified Communications Manager への接続を示します (Cisco Unified Communications Manager には接続されていますが、プライマリ Cisco Unified Communications Manager 接続が失敗するまでは登録されません)。
ANNConnectionsTotal	このカウンタは、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスの開始以降に開始されたアナウンシエータ インスタンスの総数を表します。
ANNInstancesActive	このカウンタは、アクティブに再生している (現在使用中の) アナウンスの数を表します。
ANNStreamsActive	このカウンタは、すべての接続に対して現在アクティブなシンプレックス (単方向) ストリームの総数を表します。各ストリームの方向は、1 つのストリームとしてカウントされます。1 つの内部ストリームがオーディオ入力を提供し、別の出力ストリームがエンドポイント デバイスへの入力を提供します。
ANNStreamsAvailable	このカウンタは、アナウンシエータ デバイスに対して割り当てられている使用可能なストリームの残りの数を表します。このカウンタは、設定されている接続の数 (Cisco IP Voice Media Streaming App サービス パラメータで、Annunciator、Call Count に対して定義されている) の 2 倍の数で開始され、アクティブなストリームが開始されるたびに 1 つずつ減少します。
ANNStreamsTotal	このカウンタは、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスの開始以降にアナウンシエータ デバイスに接続されたシンプレックス (単方向) ストリームの総数を表します。
CFBConferencesActive	このカウンタは、アクティブな (現在使用中の) 会議の数を表します。
CFBConferencesTotal	このカウンタは、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスの開始以降に開始された会議の総数を表します。
CFBConnectionsLost	このカウンタは、Cisco IP Voice Media Streaming Application の最後の再起動以降に Cisco Unified Communications Manager 接続が失われた回数の合計を表します。
CFBConnectionState	このカウンタは、ソフトウェア会議ブリッジに関連付けられている各 Cisco Unified Communications Manager について、Cisco Unified Communications Manager への現在の登録状態を表します。0 は、Cisco Unified Communications Manager への登録がないことを示します。1 は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager への登録を示します。2 は、セカンダリ Cisco Unified Communications Manager への接続を示します (Cisco Unified Communications Manager には接続されていますが、プライマリ Cisco Unified Communications Manager 接続が失敗するまでは登録されません)。
CFBStreamsActive	このカウンタは、すべての会議に対して現在アクティブなシンプレックス (単方向) ストリームの総数を表します。各ストリームの方向は、1 つのストリームとしてカウントされます。三者間会議では、アクティブなストリームの数は 6 になります。

表 5-19 Cisco Media Streaming Application (続き)

カウンタ	カウンタの説明
CFBStreamsAvailable	このカウンタは、会議ブリッジに対して割り当てられている使用可能なストリームの残りの数を表します。このカウンタは、設定されている接続の数 (Cisco IP Voice Media Streaming App サービス パラメータで、Conference Bridge、Call Count に対して定義されている) の 2 倍の数で開始され、アクティブなストリームが開始されるたびに 1 つずつ減少します。
CFBStreamsTotal	このカウンタは、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスの開始以降に会議ブリッジに接続されたシンプレックス (単方向) ストリームの総数を表します。
MOHAudioSourcesActive	<p>このカウンタは、この MOH サーバ用のアクティブな (現在使用中の) オーディオソースの数を表します。受信しているデバイスが存在しない場合、これらのオーディオソースの一部はアクティブなストリーミングオーディオデータではない可能性があることに注意してください。マルチキャストオーディオソースは常にストリーミングオーディオとなるため、例外となります。</p> <p>オーディオソースが使用中の場合、受信側が切断された後でも、このカウンタには設定済みの MOH コーデックごとに常に 1 つの入力ストリームが存在します。ユニキャストストリームでは、デバイスが接続してストリームを受信するまでは、受信するオーディオデータがなく、ストリームが一時停止状態になる場合があります。各 MOH マルチキャストリソースは、オーディオソースとコーデックの組み合わせごとに 1 つのストリームを使用します。たとえば、マルチキャスト、G.711 mu-law、ワイドバンドコーデックに対してデフォルトオーディオソースを設定した場合、2 つのストリーム (デフォルトオーディオソースと G.711 mu-law、およびデフォルトオーディオソースとワイドバンド) が使用されます。</p>
MOHConnectionsLost	このカウンタは、Cisco IP Voice Media Streaming Application の最後の再起動以降に Cisco Unified Communications Manager 接続が失われた回数の合計を表します。
MOHConnectionState	このカウンタは、MOH に関連付けられている各 Cisco Unified Communications Manager について、Cisco Unified Communications Manager への現在の登録状態を表します。0 は、Cisco Unified Communications Manager への登録がないことを示します。1 は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager への登録を示します。2 は、セカンダリ Cisco Unified Communications Manager への接続を示します (Cisco Unified Communications Manager には接続されていますが、プライマリ Cisco Unified Communications Manager 接続が失敗するまでは登録されません)。

表 5-19 Cisco Media Streaming Application (続き)

カウンタ	カウンタの説明
MOHStreamsActive	このカウンタは、すべての接続に対してアクティブな（現在使用中の）シンプレックス（単方向）ストリームの総数を表します。ユニキャスト オーディオソースを受信しているデバイスごとに 1 つの出カストリームが存在し、アクティブ オーディオソースごとに 1 つの入カストリームが存在します。値は MOH コーデックの数で乗算されます。 以前に使用されたことがあるオーディオソースには、設定済みの MOH コーデックごとに必ず 1 つの入カストリームが存在します。ユニキャストストリームでは、デバイスが接続してストリームを受信するまでは、受信するオーディオデータがなく、ストリームが一時停止状態になる場合があります。各 MOH マルチキャストリソースは、オーディオソースとコーデックの組み合わせごとに 1 つのストリームを使用します。たとえば、マルチキャスト、G.711 mu-law、ワイドバンドコーデックに対してデフォルトオーディオソースを設定した場合、2 つのストリーム（デフォルトオーディオソースと G.711 mu-law、およびデフォルトオーディオソースとワイドバンド）が使用されます。
MOHStreamsAvailable	このカウンタは、MOH デバイスに対して割り当てられている使用可能なストリームの残りの数を表します。このカウンタは、設定済み半二重ユニキャスト接続の数に 408 を加えた数で開始され、アクティブストリームが開始されるたびに 1 つずつ減少します。カウンタは、各マルチキャストオーディオソースに対して 2 つずつ減少します。値は設定済みの MOH コーデックの数で乗算されます。カウンタは、各ユニキャストオーディオソースに対して 1 つずつ減少します。値は設定済み MOH コーデックの数で乗算されます。
MOHStreamsTotal	このカウンタは、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスの開始以降に MOH サーバに接続されたシンプレックス（単方向）ストリームの総数を表します。
MTPConnectionsLost	このカウンタは、Cisco IP Voice Streaming Application の最後の再起動以降に Cisco Unified Communications Manager 接続が失われた回数の合計を表します。
MTPConnectionState	このカウンタは、MTP に関連付けられている各 Cisco Unified Communications Manager について、Cisco Unified Communications Manager への現在の登録状態を表します。0 は、Cisco Unified Communications Manager への登録がないことを示します。1 は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager への登録を示します。2 は、セカンダリ Cisco Unified Communications Manager への接続を示します（Cisco Unified Communications Manager には接続されていますが、プライマリ Cisco Unified Communications Manager 接続が失敗するまでは登録されません）。
MTPConnectionsTotal	このカウンタは、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスの開始以降に開始された MTP インスタンスの総数を表します。
MTPInstancesActive	このカウンタは、アクティブな（現在使用中の）MTP インスタンスの数を表します。
MTPStreamsActive	このカウンタは、すべての接続に対して現在アクティブなシンプレックス（単方向）ストリームの総数を表します。各ストリームの方向は、1 つのストリームとしてカウントされます。

表 5-19 Cisco Media Streaming Application (続き)

カウンタ	カウンタの説明
MTPStreamsAvailable	このカウンタは、MTP デバイスに対して割り当てられている使用可能なストリームの残りの数を表します。このカウンタは、設定されている接続の数 (Cisco IP Voice Media Streaming App サービス パラメータで、MTP、Call Count に対して定義されている) の 2 倍の数で開始され、アクティブなストリームが開始されるたびに 1 つずつ減少します。
MTPStreamsTotal	このカウンタは、Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスの開始以降に MTP デバイスに接続されたシンプレックス (単方向) ストリームの総数を表します。

Cisco Messaging Interface

Cisco Messaging Interface オブジェクトは、Cisco Messaging Interface (CMI) サービスについての情報を提供します。表 5-20 には、Cisco Messaging Interface (CMI) カウンタについての情報が示されています。

表 5-20 Cisco Messaging Interface

カウンタ	カウンタの説明
HeartBeat	このカウンタは、CMI サービスのハートビートを表します。このカウンタが増加している場合は、CMI サービスが稼動中であることを示します。カウンタが増加していない場合は、CMI サービスがダウンしていることを示します。
SMDIMessageCountInbound	このカウンタは、CMI サービスの最後の再起動以降に発生したインバウンド SMDI メッセージの数を表します。
SMDIMessageCountInbound24Hour	このカウンタは、最後の 24 時間以内に発生したインバウンド SMDI メッセージの数を表します。
SMDIMessageCountOutbound	このカウンタは、CMI サービスの最後の再起動以降に発生したアウトバウンド SMDI メッセージの数を表します。
SMDIMessageCountOutbound24Hour	このカウンタは、最後の 24 時間以内に発生したアウトバウンド SMDI メッセージの数を表します。
StartTime	このカウンタは、CMI サービスが開始された時間をミリ秒単位で表します。コンピュータ内のリアルタイム クロックは、現在時刻とサービス開始以降の経過時間をミリ秒単位で示す単なる参照ポイントであり、この時間の基準を提供します。参照ポイントは、1970 年 1 月 1 日の午前 0 時に指定されています。

Cisco MGCP BRI Device

Cisco Media Gateway Control Protocol (MGCP; メディア ゲートウェイ コントロール プロトコル) Foreign Exchange Office (FXO) Device オブジェクトは、登録済みの Cisco MGCP BRI デバイスについての情報を提供します。表 5-21 には、Cisco MGCP BRI Device カウンタについての情報が示されています。

表 5-21 Cisco MGCP BRI Device

カウンタ	カウンタの説明
CallsCompleted	このカウンタは、この MGCP Basic Rate Interface (BRI; 基本速度インターフェイス) デバイスから発信され成功したコールの総数を表します。
Channel 1 Status	このカウンタは、MGCP BRI デバイスに関連付けられている、指定された B チャネルの状態を表します。次の値が使用されます。0 (Unknown) は、チャネルの状態を判別できなかったことを示します。1 (Out of service) は、このチャネルが使用不可であることを示します。2 (Idle) は、このチャネルにはアクティブなコールがなく、使用可能な状態であることを示します。3 (Busy) は、このチャネルにアクティブ コールが存在することを示します。4 (Reserved) は、このチャネルが D チャネルとして、または BRI 用の Synch チャネルとして使用されるように予約されていることを示します。
Channel 2 Status	このカウンタは、MGCP BRI デバイスに関連付けられている、指定された B チャネルの状態を表します。次の値が使用されます。0 (Unknown) は、チャネルの状態を判別できなかったことを示します。1 (Out of service) は、このチャネルが使用不可であることを示します。2 (Idle) は、このチャネルにはアクティブなコールがなく、使用可能な状態であることを示します。3 (Busy) は、このチャネルにアクティブ コールが存在することを示します。4 (Reserved) は、このチャネルが D チャネルとして、または BRI 用の Synch チャネルとして使用されるように予約されていることを示します。
DatalinkInService	このカウンタは、対応するデジタルアクセス ゲートウェイ上のデータリンク (D チャネル) の状態を表します。この値は、データリンクがアップ (イン サービス) の場合は 1 に設定され、データリンクがダウン (アウト オブ サービス) の場合は 0 に設定されます。
OutboundBusyAttempts	このカウンタは、使用可能な音声チャネルがない場合に、この MGCP BRI デバイスを介してコールが試行された回数の合計を表します。

Cisco MGCP FXO Device

Cisco Media Gateway Control Protocol (MGCP) Foreign Exchange Office (FXO) Device オブジェクトは、登録済みの Cisco MGCP FXO デバイスについての情報を提供します。表 5-22 には、Cisco MGCP FXO Device カウンタについての情報が示されています。

表 5-22 Cisco MGCP FXO Device

カウンタ	カウンタの説明
CallsCompleted	このカウンタは、MGCP FXO デバイス上のポートから発信され成功したコールの総数を表します。
OutboundBusyAttempts	このカウンタは、使用可能な音声チャネルがない場合に、この MGCP FXO デバイス上のポートを介してコールが試行された回数の合計を表します。
PortStatus	このカウンタは、この MGCP FXO デバイスに関連付けられている FXO ポートの状態を表します。

Cisco MGCP FXS Device

Cisco MGCP Foreign Exchange Station (FXS) Device オブジェクトは、登録済みの Cisco MGCP FXS デバイスについての情報を提供します。このオブジェクトのインスタンスは、Cisco Catalyst 6000 24 port FXS Analog Interface Module ゲートウェイ上の各ポートに対して 1 つずつ作成されます。たとえば、完全に設定された Catalyst 6000 Analog Interface Module の場合、このオブジェクトの個々の 24 のインスタンスが表現されます。表 5-23 には、Cisco MGCP FXS Device カウンタについての情報が示されています。

表 5-23 Cisco MGCP FXS Device

カウンタ	カウンタの説明
CallsCompleted	このカウンタは、MGCP FXS デバイス上のこのポートから発信され成功したコールの総数を表します。
OutboundBusyAttempts	このカウンタは、使用可能な音声チャンネルがない場合に、この MGCP FXS デバイス上のポートを介してコールが試行された回数の合計を表します。
PortStatus	このカウンタは、MGCP FXS デバイスに関連付けられている FXS ポートの状態を表します。

Cisco MGCP Gateways

Cisco MGCP Gateways オブジェクトは、登録済みの MGCP ゲートウェイについての情報を提供します。

表 5-24 には、Cisco MGCP Gateways カウンタについての情報が示されています。

表 5-24 Cisco MGCP Gateways

カウンタ	カウンタの説明
BRISpansActive	このカウンタは、ゲートウェイのコールで現在アクティブな BRI 音声チャンネルの数を表します。
BRISpansInService	このカウンタは、ゲートウェイで現在使用可能な BRI スパンの数を表します。
FXOPortsActive	このカウンタは、ゲートウェイのコールで現在アクティブな FXO ポートの数を表します。
FXOPortsInService	このカウンタは、ゲートウェイで現在使用可能な FXO ポートの数を表します。
FXSPortsActive	このカウンタは、ゲートウェイのコールで現在アクティブな FXS ポートの数を表します。
FXSPortsInService	このカウンタは、ゲートウェイで現在使用可能な FXS ポートの数を表します。
PRISpansActive	このカウンタは、ゲートウェイのコールで現在アクティブな PRI 音声チャンネルの数を表します。
PRISpansInService	このカウンタは、ゲートウェイで現在使用可能な PRI スパンの数を表します。
T1ChannelsActive	このカウンタは、ゲートウェイのコールで現在アクティブな T1 CAS 音声チャンネルの数を表します。
T1SpansInService	このカウンタは、ゲートウェイで現在使用可能な T1 CAS スパンの数を表します。

Cisco MGCP PRI Device

Cisco MGCP Primary Rate Interface (PRI) Device オブジェクトは、登録済みの Cisco MGCP PRI デバイスについての情報を提供します。表 5-25 には、Cisco MGCP PRI Device カウンタについての情報が示されています。

表 5-25 Cisco MGCP PRI Device

カウンタ	カウンタの説明
CallsActive	このカウンタは、この MGCP PRI デバイス上で現在アクティブな（使用中の）コールの数を表します。
CallsCompleted	このカウンタは、この MGCP PRI デバイスから発信され成功したコールの総数を表します。
Channel 1 Status ~ Channel 15 Status (連続した番号)	このカウンタは、MGCP PRI デバイスに関連付けられている、指定された B チャンネルの状態を表します。次の値が使用されます。0 (Unknown) は、チャンネルの状態を判別できなかったことを示します。1 (Out of service) は、このチャンネルが使用不可であることを示します。2 (Idle) は、このチャンネルにはアクティブなコールがなく、使用可能な状態であることを示します。3 (Busy) は、このチャンネルにアクティブ コールが存在することを示します。4 (Reserved) は、このチャンネルが D チャンネルとして、または E-1 用の Synch チャンネルとして使用されるように予約されていることを示します。
Channel 16 Status	このカウンタは、MGCP PRI デバイスに関連付けられている、指定された B チャンネルの状態を表します。次の値が使用されます。0 : Unknown、1 : Out of service、2 : Idle、3 : Busy、4 : Reserved (E1 PRI インターフェイスの場合、このチャンネルは、D チャンネルとして使用するように予約されています)。
Channel 17 Status ~ Channel 31 Status (連続した番号)	このカウンタは、MGCP PRI デバイスに関連付けられている、指定された B チャンネルの状態を表します。0 : Unknown、1 : Out of service、2 : Idle、3 : Busy、4 : Reserved
DatalinkInService	このカウンタは、対応するデジタルアクセス ゲートウェイ上のデータリンク (D チャンネル) の状態を表します。この値は、データリンクがアップ (イン サービス) の場合は 1 に設定され、データリンクがダウン (アウト オブ サービス) の場合は 0 に設定されます。
OutboundBusyAttempts	このカウンタは、使用可能な音声チャンネルがない場合に、MGCP PRI デバイスを介してコールが試行された回数の合計を表します。

Cisco MGCP T1 CAS Device

Cisco MGCP T1 Channel Associated Signaling (CAS; 個別線信号方式) Device オブジェクトは、登録済みの Cisco MGCP T1 CAS デバイスについての情報を提供します。表 5-26 には、Cisco MGCP T1 CAS Device カウンタについての情報が示されています。

表 5-26 Cisco MGCP T1 CAS Device

カウンタ	カウンタの説明
CallsActive	このカウンタは、この MGCP T1 CAS デバイス上で現在アクティブな（使用中の）コールの数を表します。
CallsCompleted	このカウンタは、この MGCP T1 CAS デバイスから発信され成功したコールの総数を表します。

表 5-26 Cisco MGCP T1 CAS Device (続き)

カウンタ	カウンタの説明
Channel 1 Status ~ Channel 24 Status (連続した番号)	このカウンタは、MGCP T1 CAS デバイスに関連付けられている、指定された B チャンネルの状態を表します。次の値が使用されます。0 (Unknown) は、チャンネルの状態を判別できなかったことを示します。1 (Out of service) は、このチャンネルが使用不可であることを示します。2 (Idle) は、このチャンネルにはアクティブなコールがなく、使用可能な状態であることを示します。3 (Busy) は、このチャンネルにアクティブ コールが存在することを示します。4 (Reserved) は、このチャンネルが D チャンネルとして、または E-1 用の Synch チャンネルとして使用されるように予約されていることを示します。
OutboundBusyAttempts	このカウンタは、使用可能な音声チャンネルがない場合に、MGCP T1 CAS デバイスを介してコールが試行された回数の合計を表します。

Cisco Mobility Manager

Cisco Mobility Manager オブジェクトは、登録済みの Cisco Unified Mobility Manager デバイスについての情報を提供します。表 5-27 には、Cisco Unified Mobility Manager デバイスのカウンタについての情報が示されています。

表 5-27 Cisco Mobility Manager

カウンタ	カウンタの説明
MobileCallsAnchored	このカウンタは、現在 Cisco Unified Communications Manager 上で固定されているシングルモード/デュアルモード電話機のコールに関連付けられているパスの総数を表します。コールの固定は、コールが企業ゲートウェイに入り、モビリティアプリケーションに接続するときに実行されます。モビリティアプリケーションは、この後、リダイレクションを使用してコールを企業ゲートウェイに返送します。たとえば、デュアルモード電話機間のコールの場合、このカウンタは 2 つ増加します。つまり、起点のコールで 1 つ増加し、終端のコールで 1 つ増加します。このカウンタは、コールが終了したときに減少します。
MobilityHandinsAborted	このカウンタは、中断された hand-in 操作の総数を表します。
MobileHandinsCompleted	このカウンタは、デュアルモード電話機で完了した hand-in 操作の総数を表します。hand-in 操作は、コールが企業ネットワーク内で正常に接続され、電話機が WAN から WLAN に移動したときに完了します。
MobilityHandinsFailed	このカウンタは、失敗した hand-in 操作 (セルラー ネットワークから無線ネットワークに移動したモバイル デバイス上のコール) の総数を表します。
MobilityHandoutsAborted	このカウンタは、中断された hand-out 操作の総数を表します。
MobileHandoutsCompleted	このカウンタは、完了した hand-out 操作 (企業 WLAN ネットワークからセルラー ネットワークに移動したモバイル デバイス上のコール) の総数を表します。hand-out 操作は、コールが正常に接続されたときに完了します。
MobileHandoutsFailed	このカウンタは、失敗した hand-out 操作 (セルラー ネットワークから無線ネットワークに移動したモバイル デバイス上のコール) の総数を表します。
MobilityFollowMeCallsAttempted	このカウンタは、試行された follow-me コールの総数を表します。
MobilityFollowMeCallsIgnoredDueToAnswerTooSoon	このカウンタは、AnswerTooSoon タイマーがオフになる前に無視された follow-me コールの総数を表します。
MobilityIVRCallsAttempted	このカウンタは、試行された IVR コールの総数を表します。
MobilityIVRCallsFailed	このカウンタは、失敗した IVR コールの総数を表します。

表 5-27 Cisco Mobility Manager (続き)

カウンタ	カウンタの説明
MobilityIVRCallsSucceeded	このカウンタは、成功した IVR コールの総数を表します。
MobilitySCCPDualModeRegistered	このカウンタは、登録されているデュアルモード SCCP デバイスの総数を表します。
MobilitySIPDualModeRegistered	このカウンタは、登録されているデュアルモード SIP デバイスの総数を表します。

Cisco Music On Hold (MOH; 保留音) Device

Cisco Music On Hold (MOH) Device オブジェクトは、登録済みの Cisco MOH デバイスについての情報を提供します。表 5-28 には、Cisco MOH Device のカウンタについての情報が示されています。

表 5-28 Cisco MOH Device

カウンタ	カウンタの説明
MOHHighestActiveResources	このカウンタは、MOH サーバに対して同時にアクティブになる MOH 接続の最大数を表します。この数には、マルチキャスト接続とユニキャスト接続の両方が含まれています。
MOHMulticastResourceActive	このカウンタは、MOH サーバから提供されるマルチキャスト アドレスへの、現在アクティブなマルチキャスト接続の数を表します。 各 MOH マルチキャスト リソースは、オーディオ ソースとコーデックの組み合わせごとに 1 つのストリームを使用します。たとえば、マルチキャスト、G.711 mu-law、ワイドバンド コーデックに対してデフォルト オーディオ ソースを設定した場合、2 つのストリーム (デフォルト オーディオ ソースと G.711 mu-law、およびデフォルト オーディオ ソースとワイドバンド) が使用されます。
MOHMulticastResourceAvailable	このカウンタは、MOH サーバから提供される、非アクティブで現在も MOH サーバで使用可能なマルチキャスト アドレスへの、マルチキャスト MOH 接続の数を表します。 各 MOH マルチキャスト リソースは、オーディオ ソースとコーデックの組み合わせごとに 1 つのストリームを使用します。たとえば、マルチキャスト、G.711 mu-law、ワイドバンド コーデックに対してデフォルト オーディオ ソースを設定した場合、2 つのストリーム (デフォルト オーディオ ソースと G.711 mu-law、およびデフォルト オーディオ ソースとワイドバンド) が使用されます。
MOHOutOfResources	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべての MOH サーバ上で使用可能なすべてのリソースがすでにアクティブであった場合に、Media Resource Manager が MOH リソースの割り当てを試行した回数合計を表します。
MOHTotalMulticastResources	このカウンタは、MOH サーバから提供されるマルチキャスト アドレスに対して許可されている、マルチキャスト MOH 接続の総数を表します。 各 MOH マルチキャスト リソースは、オーディオ ソースとコーデックの組み合わせごとに 1 つのストリームを使用します。たとえば、マルチキャスト、G.711 mu-law、ワイドバンド コーデックに対してデフォルト オーディオ ソースを設定した場合、2 つのストリーム (デフォルト オーディオ ソースと G.711 mu-law、およびデフォルト オーディオ ソースとワイドバンド) が使用されます。
MOHTotalUnicastResources	このカウンタは、MOH サーバによって許可されているユニキャスト MOH 接続の総数を表します。 各 MOH ユニキャスト リソースは、1 つのストリームを使用します。

表 5-28 Cisco MOH Device (続き)

カウンタ	カウンタの説明
MOHUnicastResourceActive	このカウンタは、MOH サーバへのアクティブなユニキャスト MOH 接続の数を表します。 各 MOH ユニキャスト リソースは、1 つのストリームを使用します。
MOHUnicastResourceAvailable	このカウンタは、非アクティブで、MOH サーバで現在も使用可能なユニキャスト MOH 接続の数を表します。 各 MOH ユニキャスト リソースは、1 つのストリームを使用します。

Cisco MTP Device

Cisco Media Termination Point (MTP) Device オブジェクトは、登録済みの Cisco MTP デバイスについての情報を提供します。表 5-29 には、Cisco MTP Device カウンタについての情報が示されています。

表 5-29 Cisco MTP Device

カウンタ	カウンタの説明
OutOfResources	このカウンタは、MTP デバイスから MTP リソースの割り当てを試行して、すべてのリソースがすでに使用中であるなどの理由で失敗した回数の合計を表します。
ResourceActive	このカウンタは、MTP デバイスに対して現在使用中の (アクティブな) MTP リソースの数を表します。 各 MTP リソースは、2 つのストリームを使用します。使用中の MTP は、コールで使用するために割り当てられている 1 つの MTP リソースを表します。
ResourceAvailable	このカウンタは、非アクティブで、MTP デバイスに対して現在も使用可能な MTP リソースの総数を表します。 各 MTP リソースは、2 つのストリームを使用します。使用中の MTP は、コールで使用するために割り当てられている 1 つの MTP リソースを表します。
ResourceTotal	このカウンタは、MTP デバイスが提供する MTP リソースの総数を表します。 このカウンタは、ResourceAvailable カウンタと ResourceActive カウンタを合計した数になります。

Cisco Phones

Cisco Phones オブジェクトは、ハードウェアベースのデバイスとその他の端末デバイスの両方を含む、登録済みの Cisco Unified IP Phone の数についての情報を提供します。

CallsAttempted カウンタは、この電話機から試行されたコールの数を表します。この数は、電話機がオフフックおよびオンフックになるたびに増加します。

Cisco Presence Feature

Cisco Presence オブジェクトは、短縮ダイヤルやコールリストの Busy Lamp Field (BLF; ビジー ランプ フィールド) の登録に関連する統計など、プレゼンス登録についての情報を提供します。表 5-30 には、Cisco Presence 機能についての情報が示されています。

表 5-30 Cisco Presence

カウンタ	カウンタの説明
ActiveCallListAndTrunkSubscriptions	このカウンタは、コール リスト機能のアクティブなプレゼンス登録と SIP トランクを介したプレゼンス登録を表します。
ActiveSubscriptions	このカウンタは、すべてのアクティブな着信と発信のプレゼンス登録を表します。
CallListAndTrunkSubscriptionsThrottled	このカウンタは、コール リスト機能の制御のために拒否されたコール リストのプレゼンス登録とトランク側のプレゼンス登録の累計数を表します。
IncomingLineSideSubscriptions	このカウンタは、回線側で受信されたプレゼンス登録の累計数を表します。
IncomingTrunkSideSubscriptions	このカウンタは、トランク側で受信されたプレゼンス登録の累計数を表します。
OutgoingTrunkSideSubscriptions	このカウンタは、トランク側で送信されたプレゼンス登録の累計数を表します。

Cisco QSIG Feature

Cisco QSIG Feature オブジェクトは、コール転送やパス置換など、さまざまな QSIG 機能の操作についての情報を提供します。表 5-31 には、Cisco QSIG Feature のカウンタについての情報が示されています。

表 5-31 Cisco QSIG Feature

カウンタ	カウンタの説明
CallForwardByRerouteCompleted	このカウンタは、再ルーティングにより自動転送され成功したコールの数を表します。再ルーティングによる自動転送は、自動転送されるコールのパスを、発信元の観点から最適化します（使用中の B チャネルの数を最少化します）。このカウンタは、Cisco CallManager の Call Forward by Reroute Enabled サービス パラメータが有効または無効にされたとき、または Cisco CallManager サービスが再起動されたときにリセットされます。
PathReplacementCompleted	このカウンタは、正常に実行されたパス置換の数を表します。QSIG ネットワークにおけるパス置換は、コールに含まれる 2 つのエッジ PINX (PBX) 間のパスを最適化します。このカウンタは、Cisco CallManager の Path Replacement Enabled サービス パラメータが有効または無効にされたとき、または Cisco CallManager サービスが再起動されたときにリセットされます。

Cisco Signaling Performance

Cisco Signaling Performance オブジェクトは、Cisco Unified Communications Manager の転送通信に関するコールシグナリング データを提供します。表 5-32 には、Cisco Signaling Performance のカウンタについての情報が示されています。

表 5-32 Cisco Signaling Performance

カウンタ	カウンタの説明
UDPPacketsThrottled	このカウンタは、1 つの IP アドレスから許可されている毎秒あたりの着信パケット数のしきい値を超過したことによって制御（ドロップ）された着信 UDP パケットの総数を表します。しきい値は、Cisco Unified CM の管理の SIP Station UDP Port Throttle Threshold と SIP Trunk UDP Port Throttle Threshold の各サービス パラメータで設定します。このカウンタは、Cisco CallManager Service の最後の再起動以降、制御された UDP パケットを受信するたびに増加します。

Cisco SIP

Cisco Session Initiation Protocol (SIP; セッション開始プロトコル) オブジェクトは、設定済みの SIP デバイスについての情報を提供します。表 5-33 には、Cisco SIP のカウンタについての情報が示されています。

表 5-33 Cisco SIP

カウンタ	カウンタの説明
CallsActive	このカウンタは、この SIP デバイス上で現在アクティブな（使用中の）コールの数を表します。
CallsAttempted	このカウンタは、この SIP デバイス上で試行されたコールの数を表します。成功したコールの試行と失敗したコールの試行の両方が含まれます。
CallsCompleted	このカウンタは、SIP デバイスから実際に接続された（音声パスが確立された）コールの数を表します。この数は、コールが終了したときに増加します。
CallsInProgress	このカウンタは、SIP デバイス上で現在進行中の、すべてのアクティブ コールを含むコールの数を表します。進行中のすべてのコールが接続されたときに、CallsInProgress の数は CallsActive の数と等しくなります。
VideoCallsActive	このカウンタは、この SIP デバイス上で現在アクティブな（使用中の）ストリーミング ビデオ接続を持つビデオ コールの数を表します。
VideoCallsCompleted	このカウンタは、この SIP デバイスのビデオストリームに実際に接続されたビデオ コールの数を表します。この数は、コールが終了したときに増加します。

Cisco SIP Normalization

Cisco SIP Normalization パフォーマンス オブジェクトには、初期化エラー、実行時エラー、スクリプト ステータスなどの正規化スクリプトの側面をモニタできるようにするカウンタが含まれています。これらのカウンタのインスタンスは、スクリプトに関連付けられている各デバイスによって新規に作成されます。表 5-34 に、Cisco SIP Normalization カウンタを示します。

表 5-34 Cisco SIP Normalization

表示名	説明
DeviceResetAutomatically	このカウンタは、Cisco Unified CM がデバイス（SIP トランク）を自動的にリセットした回数を表します。デバイスのリセットは、Cisco Unified CM の管理の [SIP 正規化スクリプト設定 (SIP Normalization Script Configuration)] ウィンドウの [スクリプト実行エラーの復旧処理 (Script Execution Error Recovery Action)] フィールドと [システム リソース エラーの復旧処理 (System Resource Error Recovery Action)] フィールドに指定した値に基づいて行われます。スクリプト エラーが原因でデバイス (SIP トランク) がリセットされると、カウンタの値が増加します。このカウンタは、デバイスを手動でリセットするとリセットされます。

表 5-34 Cisco SIP Normalization (続き)

表示名	説明
DeviceResetManually	<p>このカウンタは、Cisco Unified CM の管理でデバイス (SIP トランク) が手動でリセットされた回数、または AXL などのその他の方法でリセットされた回数を表します。設定変更が原因でスクリプトに関連付けられたデバイスがリセットされると、カウンタの値が増加します。</p> <p>カウンタは次の場合にリセットされます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SIP トランクが削除された場合。 • トランクのスクリプトが変更または削除された場合。 • Cisco Unified Communications Manager が再起動した場合。
ErrorExecution	<p>このカウンタは、スクリプトの実行中に発生した実行エラーの数を表します。実行エラーは、メッセージ ハンドラの実行中に発生することがあります。実行エラーの原因として考えられるのは、リソース エラーや関数呼び出し内での引数の不一致などです。</p> <p>実行エラーが発生すると、Cisco Unified CM は自動的に次の処理を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動的にメッセージを元の内容に復元してから、追加のエラー処理アクションを適用します。 • カウンタの値を増分します。 • Cisco Unified CM の管理の [スクリプト実行エラーの復旧処理 (Script Execution Error Recovery Action)] フィールドと [システム リソース エラーの復旧処理 (System Resource Error Recovery Action)] フィールドの値に基づいて、適切な処理を実行します。 <p>スクリプト内の失敗した行の番号などの詳細については、SIPNormalizationScriptError アラームを確認してください。スクリプトの問題を修正し、必要に応じて修正したスクリプトをアップロードして、トランクをリセットします。このカウンタは、実行エラーが発生するたびに増加します。このカウンタは、スクリプトの設定変更に伴う最新のトランク リセットからのカウントを提供します (デバイスのリセットだけではカウントはリセットされません。リセットが発生する前に、スクリプトの設定も変更されている必要があります)。</p> <p>スクリプトの問題を修正した後もカウンタが増加し続ける場合は、スクリプトを調べ直してください。</p>
ErrorInit	<p>このカウンタは、スクリプトがメモリに正常にロードされたものの、Cisco Unified CM での初期化に失敗した後に発生したスクリプト エラーの数を表します。スクリプトが初期化に失敗する原因として考えられるのは、リソース エラー、関数呼び出し内での引数の不一致、必要なテーブルが返されなかったことなどです。</p> <p>スクリプト内の失敗した行の番号などの詳細については、SIPNormalizationScriptError アラームを確認してください。スクリプトの問題を修正し、必要に応じて修正したスクリプトをアップロードして、トランクをリセットします。このカウンタは、初期化エラーが発生するたびに増加します。このカウンタは、スクリプトの設定変更に伴う最新のトランク リセットからのカウントを提供します (デバイスのリセットだけではカウントはリセットされません。リセットが発生する前に、スクリプトの設定も変更されている必要があります)。スクリプトの問題を修正した後もカウンタが増加し続ける場合は、スクリプトを調べ直してください。初期化中にエラーが発生した場合、Cisco Unified CM は自動的にスクリプトを無効にします。</p>

表 5-34 Cisco SIP Normalization (続き)

表示名	説明
ErrorInternal	このカウンタは、スクリプトの実行中に発生した内部エラーの数を表します。内部エラーが発生することはほとんどありません。このカウンタの値がゼロより大きい場合は、スクリプトの内容または実行に関係のない不具合がシステム内に存在します。SDI トレースを収集し、テクニカルアシスタンスセンター (TAC) に問い合わせてください。
ErrorLoad	このカウンタは、スクリプトが Cisco Unified Communications Manager のメモリにロードされたときに発生したスクリプト エラーの数を表します。スクリプトがロードに失敗する原因として考えられるのは、メモリの問題または構文エラーです。 詳細については、SIPNormalizationScriptError アラームを確認してください。スクリプトに構文エラーがないか確認し、必要に応じて修正したスクリプトをアップロードして、トランクをリセットします。このカウンタは、ロード エラーが発生するたびに増加します。このカウンタは、スクリプトの設定変更に伴う最新のトランク リセットからのカウントを提供します (デバイスのリセットだけではカウントはリセットされません。リセットが発生する前に、スクリプトの設定も変更されている必要があります)。スクリプトの問題を修正した後もカウンタが増加し続ける場合は、スクリプトを調べ直してください。
ErrorResource	このカウンタは、スクリプトでリソース エラーが発生したかどうかを示します。 リソース エラーは 2 種類あります。1 つは [メモリしきい値 (Memory Threshold)] フィールドの値を超えることで、もう 1 つは [Lua 命令しきい値 (Lua Instruction Threshold)] フィールドの値を超えることです (両フィールドは、Cisco Unified CM の管理の [SIP 正規化スクリプト設定 (SIP Normalization Script Configuration)] ウィンドウに表示されます)。いずれかの状況が発生した場合、Cisco Unified Communications Manager はすぐにスクリプトを閉じて SIPNormalizationScriptError アラームを発行します。 スクリプトのロード中または初期化中にリソース エラーが発生した場合は、スクリプトが無効になります。実行中にリソース エラーが発生した場合は、設定されたシステム リソース エラーの復旧処理が実行されます (この処理は、Cisco Unified CM の管理の [SIP 正規化スクリプト設定 (SIP Normalization Script Configuration)] ウィンドウの [システム リソース エラーの復旧処理 (System Resource Error Recovery Action)] フィールドの設定によって定義されます)。
MemoryUsage	このカウンタは、スクリプトが使用するメモリの量をバイト単位で示します。このカウンタは、スクリプトが使用するメモリの量に合わせて増減します。このカウントは、スクリプトが閉じるとクリアされ (閉じたスクリプトはメモリを使用しないため)、スクリプトが開くと (有効になると) 再開されます。このカウンタの数値が高い場合は、リソースの問題が発生していることを示します。MemoryUsagePercentage カウンタと SIPNormalizationResourceWarning アラームを確認してください。 SIPNormalizationResourceWarning アラームは、リソースの使用量が内部的に設定されたしきい値を超えた場合に発生します。

表 5-34 Cisco SIP Normalization (続き)

表示名	説明
MemoryUsagePercentage	<p>このカウンタは、スクリプトが使用するメモリの総量のパーセント値を示します。</p> <p>このカウンタの値は、MemoryUsage カウンタの値を ([SIP 正規化スクリプト設定 (SIP Normalization Script Configuration)] ウィンドウの) [メモリしきい値 (Memory Threshold)] フィールドの値で割り、その結果に 100 を掛けてパーセント値にすることで求められます。</p> <p>このカウンタは、MemoryUsage カウンタに合わせて増減します。このカウンタは、スクリプトが閉じるとクリアされ (閉じたスクリプトはメモリを使用しないため)、スクリプトが開くと (有効になると) 再開されます。このカウンタが内部的に制御されたリソースのしきい値に達すると、SIPNormalizationResourceWarning アラームが発行されます。</p>
MessageRollback	<p>このカウンタは、システムが自動的にメッセージをロールバックした回数を表示します。システムによるメッセージのロールバックには、Cisco Unified CM の管理ページにある [SIP 正規化スクリプト設定 (SIP Normalization Script Configuration)] ウィンドウの [スクリプト実行エラーの復旧処理 (Script Execution Error Recovery Action)] フィールドに指定したエラー処理が使用されます。</p> <p>実行エラーが発生すると、Cisco Unified CM は自動的にメッセージを元の内容に復元してから、追加のエラー処理アクションを適用します。エラー処理にロールバックしか指定されていない場合、正規化の試行の前に実行されるアクションは元のメッセージへのロールバックだけです。その他の [スクリプト実行エラーの復旧処理 (Script Execution Error Recovery Action)] が指定されている場合は、メッセージのロールバックが必ず最初に行われ、その後、スクリプトの無効化、スクリプトの自動リセット、トランクの自動リセットなどの指定された処理が実行されます。</p>
msgAddContentBody	<p>このカウンタは、スクリプトがメッセージにコンテンツ本文を追加した回数を表示します。スクリプトで msg:addContentBody API を使用している場合、このカウンタは msg:addContentBody API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプト ロジックにエラーがないか調べてください。</p>
msgAddHeader	<p>このカウンタは、スクリプトがメッセージに SIP ヘッダーを追加した回数を表示します。スクリプトで msg:addHeader API を使用している場合、このカウンタは msg:addHeader API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプト ロジックにエラーがないか調べてください。</p>
msgAddHeaderUriParameter	<p>このカウンタは、スクリプトがメッセージの SIP ヘッダーに SIP ヘッダー URI パラメータを追加した回数を表示します。スクリプトで msg:addHeaderUriParameter API を使用している場合、このカウンタは msg:addHeaderUriParameter API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプト ロジックにエラーがないか調べてください。</p>
msgAddHeaderValueParameter	<p>このカウンタは、スクリプトがメッセージの SIP ヘッダーに SIP ヘッダー値パラメータを追加した回数を表示します。スクリプトで msg:addHeaderValueParameter API を使用している場合、このカウンタは msg:addHeaderValueParameter API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプト ロジックにエラーがないか調べてください。</p>
msgApplyNumberMask	<p>このカウンタは、スクリプトがメッセージの SIP ヘッダーに番号マスクを適用した回数を表示します。スクリプトで msg:applyNumberMask API を使用している場合、このカウンタは msg:applyNumberMask API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプト ロジックにエラーがないか調べてください。</p>

表 5-34 Cisco SIP Normalization (続き)

表示名	説明
msgBlock	このカウンタは、スクリプトがメッセージをブロックした回数を表示します。スクリプトで msg:block API を使用している場合、このカウンタは msg:block API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプトロジックにエラーがないか調べてください。
msgConvertDiversionToHI	このカウンタは、スクリプトがメッセージの Diversion ヘッダーを History-Info ヘッダーに変換した回数を表示します。スクリプトで msg:convertDiversionToHI API を使用している場合、このカウンタは msg:convertDiversionToHI API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプトロジックにエラーがないか調べてください。
msgConvertHItoDiversion	このカウンタは、スクリプトがメッセージの Diversion ヘッダーを History-Info ヘッダーに変換した回数を表示します。スクリプトで msg:convertDiversionToHI API を使用している場合、このカウンタは msg:convertDiversionToHI API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプトロジックにエラーがないか調べてください。
msgModifyHeader	このカウンタは、スクリプトがメッセージの SIP ヘッダーを変更した回数を表示します。スクリプトで msg:modifyHeader API を使用している場合、このカウンタは msg:modifyHeader API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプトロジックにエラーがないか調べてください。
msgRemoveContentBody	このカウンタは、スクリプトがメッセージからコンテンツ本文を削除した回数を表示します。スクリプトで msg:removeContentBody API を使用している場合、このカウンタは msg:removeContentBody API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプトロジックにエラーがないか調べてください。
msgRemoveHeader	このカウンタは、スクリプトがメッセージから SIP ヘッダーを削除した回数を表示します。スクリプトで msg:removeHeader API を使用している場合、このカウンタは msg:removeHeader API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプトロジックにエラーがないか調べてください。
msgRemoveHeaderValue	このカウンタは、スクリプトがメッセージから SIP ヘッダー値を削除した回数を表示します。スクリプトで msg:removeHeaderValue API を使用している場合、このカウンタは msg:removeHeaderValue API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプトロジックにエラーがないか調べてください。
msgSetRequestUri	このカウンタは、スクリプトがメッセージの要求 URI を変更した回数を表示します。スクリプトで msg:setRequestUri API を使用している場合、このカウンタは msg:setRequestUri API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプトロジックにエラーがないか調べてください。
msgSetResponseCode	このカウンタは、スクリプトがメッセージの応答コードや応答フレーズを変更した回数を表示します。スクリプトで msg:setResponseCode API を使用している場合、このカウンタは msg:setResponseCode API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプトロジックにエラーがないか調べてください。
msgSetSdp	このカウンタは、スクリプトがメッセージの SDP を設定した回数を表示します。スクリプトで msg:setSdp API を使用している場合、このカウンタは msg:setSdp API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプトロジックにエラーがないか調べてください。

表 5-34 Cisco SIP Normalization (続き)

表示名	説明
ptAddContentBody	このカウンタは、スクリプトが PassThrough (pt) オブジェクトにコンテンツ本文を追加した回数を表します。スクリプトで pt:addContentBody API を使用している場合、このカウンタは pt:addContentBody API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプト ロジックにエラーがないか調べてください。
ptAddHeader	このカウンタは、スクリプトが PassThrough (pt) オブジェクトに SIP ヘッダーを追加した回数を表します。スクリプトで pt:addHeader API を使用している場合、このカウンタは pt:addHeader API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプト ロジックにエラーがないか調べてください。
ptAddHeaderUriParameter	このカウンタは、スクリプトが PassThrough (pt) オブジェクトに SIP ヘッダー URI パラメータを追加した回数を表します。スクリプトで pt:addHeaderUriParameter API を使用している場合、このカウンタは pt:addHeaderUriParameter API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプト ロジックにエラーがないか調べてください。
ptAddHeaderValueParameter	このカウンタは、スクリプトが PassThrough (pt) オブジェクトに SIP ヘッダー値パラメータを追加した回数を表します。スクリプトで pt:addHeaderValueParameter API を使用している場合、このカウンタは pt:addHeaderValueParameter API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプト ロジックにエラーがないか調べてください。
ptAddRequestUriParameter	このカウンタは、スクリプトが PassThrough (pt) オブジェクトに要求 URI パラメータを追加した回数を表します。スクリプトで pt:addRequestUriParameter API を使用している場合、このカウンタは pt:addRequestUriParameter API が正常に実行されるたびに増加します。カウンタが予想どおりに動作しない場合は、スクリプト ロジックにエラーがないか調べてください。
ScriptActive	<p>このカウンタは、スクリプトが現在アクティブになっている（トランクで実行されている）かどうかを示します。カウンタに表示される値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0：スクリプトが閉じている（無効になっている）ことを示します。 • 1：スクリプトが開いていて実行可能な状態になっていることを示します。 <p>このトランクで実行されている必要があるスクリプトを開くには、次の操作を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スクリプトが開いていない理由を示している可能性があるアラームがないか確認します。 2. エラーをすべて修正します。 3. 必要に応じて新しいスクリプトをアップロードします。 4. トランクをリセットします。

表 5-34 Cisco SIP Normalization (続き)

表示名	説明
ScriptClosed	<p>このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager がスクリプトを閉じた回数を表します。</p> <p>スクリプトが閉じている場合、このデバイスでスクリプトを使用できません。</p> <p>Cisco Unified CM は、次のいずれかの条件が発生した場合にスクリプトを閉じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • デバイスが手動でリセットされた場合。 • デバイスが (エラーにより) 自動的にリセットされた場合。 • デバイスが削除された場合。 <p>このカウンタは、スクリプトの設定が変更された後に SIP トランクがリセットされたとき、および Cisco Unified CM が再起動したときにリセットされます。</p>
ScriptDisabledAutomatically	<p>このカウンタは、システムが自動的にスクリプトを無効にした回数を表します。スクリプトを無効にするかどうかは、Cisco Unified CM の管理ページにある [SIP 正規化スクリプト設定 (SIP Normalization Script Configuration)] ウィンドウの [スクリプト実行エラーの復旧処理 (Script Execution Error Recovery Action)] フィールドと [システム リソース エラーの復旧処理 (System Resource Error Recovery Action)] フィールドに指定した値によって決定されます。スクリプトは、ロード中および初期化中にスクリプト エラー条件が発生した場合にも無効になります。このカウンタは、スクリプトの設定変更に伴うデバイスの最新の手動リセットからのカウントを提供します (デバイスのリセットだけではカウントはリセットされません。リセットが発生する前に、スクリプトが変更されている必要があります)。このカウンタは、Cisco Unified CM がスクリプト エラーにより自動的にスクリプトを無効にするたびに増加します。</p> <p>このカウンタの数値が予想よりも高い場合は、次の操作を実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SIPNormalizationScriptError アラームと SIPNormalizationAutoResetDisabled アラームを調べます。 • RTMT のリソース関連のアラームとカウンタを調べて、リソースの問題が発生しているかどうかを判断します。 • SDI トレース ファイルに予期しない SIP 正規化イベントがあるかどうかを調べます。

表 5-34 Cisco SIP Normalization (続き)

表示名	説明
ScriptOpened	<p>このカウンタは、Cisco Unified CM がスクリプトを開こうとした回数を表します。スクリプトを開くには、Cisco Unified CM のメモリにスクリプトをロードし、初期化して、実行可能な状態にする必要があります。このカウンタの値が 1 より大きくなっている場合は、予期しない理由あるいはロード中または初期化中のエラーにより、Cisco Unified CM がこの SIP トランクのスクリプトを 2 回以上開こうとしたことを意味します。このエラーは、実行エラー、リソース エラー、あるいはスクリプト内の無効な構文により発生する場合があります。DeviceResetManually、DeviceResetAutomatically、または ScriptResetAutomatically のいずれかのカウンタが増加すると、このカウンタは 1 より大きくなります。DeviceResetManually カウンタは、予期されたイベント (SIP トランクのメンテナンス期間など) が原因でスクリプトが閉じたときに増加します。</p> <p>このカウンタの数値が予期しない理由で高くなっている場合は、次の操作を実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SIPNormalizationScriptClosed、SIPNormalizationScriptError、SIPNormalizationResourceWarning などのアラームを調べます。 • RTMT のリソース関連のアラームとカウンタを調べて、リソースの問題が発生しているかどうかを判断します。 • SDI トレース ファイルに予期しない SIP 正規化イベントがあるかどうかを調べます。 <p>このカウンタは、スクリプトの設定が変更された後に SIP トランクがリセットされたとき、および Cisco Unified CM が再起動したときにリセットされます。</p>
ScriptResetAutomatically	<p>このカウンタは、システムが自動的にスクリプトをリセットした回数を表します。スクリプトのリセットは、Cisco Unified CM の管理ページにある [SIP 正規化スクリプト設定 (SIP Normalization Script Configuration)] ウィンドウの [スクリプト実行エラーの復旧処理 (Script Execution Error Recovery Action)] フィールドと [システムリソース エラーの復旧処理 (System Resource Error Recovery Action)] フィールドに指定した値に基づいて行われます。このカウンタは、デバイスの最後の手動リセットの後に行われたスクリプトの自動リセットの回数を示します。このカウンタは、Cisco Unified CM がスクリプト エラーにより自動的にスクリプトをリセットするたびに増加します。</p> <p>このカウンタの数値が予想よりも高い場合は、次の操作を実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SIPNormalizationScriptError アラームを調べます。 • RTMT のリソース関連のアラームとカウンタを調べて、リソースの問題が発生しているかどうかを判断します。 • SDI トレース ファイルに予期しない SIP 正規化イベントがあるかどうかを調べます。

Cisco SIP Stack

Cisco SIP Stack オブジェクトは、Session Initiation Protocol (SIP) デバイス (SIP プロキシ、SIP リダイレクト サーバ、SIP レジストラ、SIP ユーザ エージェントなど) で生成または使用される SIP スタックの統計についての情報を提供します。表 5-35 には、Cisco SIP Stack のカウンタについての情報が示されています。

表 5-35 Cisco SIP Stack

カウンタ	カウンタの説明
AckIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した ACK 要求の総数を表します。
AckOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した ACK 要求の総数を表します。
ByeIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した BYE 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
ByeOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した BYE 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
CancelIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した CANCEL 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
CancelOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した CANCEL 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
CCBsAllocated	このカウンタは、SIP スタックで現在使用中の Call Control Block (CCB; コール制御ブロック) の数を表します。アクティブな各 SIP ダイアログは、1 つの CCB を使用します。
GlobalFailedClassIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した 6xx クラス SIP 応答の総数を表します。この数には再送信が含まれます。このクラスの応答は、クライアント機能を提供する SIP デバイスが失敗応答メッセージを受信したことを示します。一般に、こうした応答は、サーバが Request-URI の特定のインスタンスだけではなく、特定の着信側に関する明確な情報を保持していることを示します。
GlobalFailedClassOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した 6xx クラス SIP 応答の総数を表します。この数には再送信が含まれます。このクラスの応答は、サーバ機能を提供する SIP デバイスが失敗応答メッセージを受信したことを示します。一般に、こうした応答は、サーバが Request-URI の特定のインスタンスだけではなく、特定の着信側に関する明確な情報を保持していることを示します。
InfoClassIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した 1xx クラス SIP 応答の総数を表します。この数には再送信が含まれます。このクラスの応答は、SIP 要求の進行についての情報を提供します。
InfoClassOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した 1xx クラス SIP 応答の総数を表します。この数には再送信が含まれます。このクラスの応答は、SIP 要求の処理の進行についての情報を提供します。
InfoIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した INFO 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
InfoOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した INFO 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
InviteIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した INVITE 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
InviteOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した INVITE 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
NotifyIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した NOTIFY 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
NotifyOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した NOTIFY 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
OptionsIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した OPTIONS 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。

表 5-35 Cisco SIP Stack (続き)

カウンタ	カウンタの説明
OptionsOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した OPTIONS 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
PRACKIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した PRACK 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
PRACKOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した PRACK 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
PublishIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した PUBLISH 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
PublishOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した PUBLISH 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
RedirClassIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した 3xx クラス SIP 応答の総数を表します。この数には再送信が含まれます。このクラスの応答は、着信側から到達可能なアドレスへのリダイレクションについての情報を提供します。
RedirClassOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した 3xx クラス SIP 応答の総数を表します。この数には再送信が含まれます。このクラスの応答は、着信側から到達可能なアドレスへのリダイレクションについての情報を提供します。
ReferIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した REFER 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
ReferOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した REFER 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
RegisterIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した REGISTER 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
RegisterOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した REGISTER 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
RequestsFailedClassIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した 4xx クラス SIP 応答の総数を表します。この数には再送信が含まれます。このクラスの応答は、クライアント機能を提供する SIP デバイスによる要求の失敗を示します。
RequestsFailedClassOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した 4xx クラス SIP 応答の総数を表します。この数には再送信が含まれます。このクラスの応答は、サーバ機能を提供する SIP デバイスによる要求の失敗を示します。
RetryByes	このカウンタは、SIP デバイスが送信した BYE の再試行回数の合計を表します。最初の BYE の試行回数を判別するには、sipStatsByeOuts カウンタの値からこのカウンタの値を減算します。
RetryCancels	このカウンタは、SIP デバイスが送信した CANCEL の再試行回数の合計を表します。最初の CANCEL の試行回数を判別するには、sipStatsCancelOuts カウンタの値からこのカウンタの値を減算します。
RetryInfo	このカウンタは、SIP デバイスが送信した INFO の再試行回数の合計を表します。最初の INFO の試行回数を判別するには、sipStatsInfoOuts カウンタの値からこのカウンタの値を減算します。
RetryInvites	このカウンタは、SIP デバイスが送信した INVITE の再試行回数の合計を表します。最初の INVITE の試行回数を判別するには、sipStatsInviteOuts カウンタの値からこのカウンタの値を減算します。

表 5-35 Cisco SIP Stack (続き)

カウンタ	カウンタの説明
RetryNotify	このカウンタは、SIP デバイスが送信した NOTIFY の再試行回数の合計を表します。最初の NOTIFY の試行回数を判別するには、sipStatsNotifyOuts カウンタの値からこのカウンタの値を減算します。
RetryPRACK	このカウンタは、SIP デバイスが送信した PRACK の再試行回数の合計を表します。最初の PRACK の試行回数を判別するには、sipStatsPRACKOuts カウンタの値からこのカウンタの値を減算します。
RetryPublish	このカウンタは、SIP デバイスが送信した PUBLISH の再試行回数の合計を表します。最初の PUBLISH の試行回数を判別するには、sipStatsPublishOuts カウンタの値からこのカウンタの値を減算します。
RetryRefer	このカウンタは、SIP デバイスが送信した REFER の再試行回数の合計を表します。最初の REFER の試行回数を判別するには、sipStatsReferOuts カウンタの値からこのカウンタの値を減算します。
RetryRegisters	このカウンタは、SIP デバイスが送信した REGISTER の再試行回数の合計を表します。最初の REGISTER の試行回数を判別するには、sipStatsRegisterOuts カウンタの値からこのカウンタの値を減算します。
RetryRelIxx	このカウンタは、SIP デバイスが送信した Reliable Ixx の再試行回数の合計を表します。
RetryRequestsOut	このカウンタは、SIP デバイスが送信した Request の再試行回数の合計を表します。
RetryResponsesFinal	このカウンタは、SIP デバイスが送信した Final Response の再試行回数の合計を表します。
RetryResponsesNonFinal	このカウンタは、SIP デバイスが送信した非 Final Response の再試行回数の合計を表します。
RetrySubscribe	このカウンタは、SIP デバイスが送信した SUBSCRIBE の再試行回数の合計を表します。最初の SUBSCRIBE の試行回数を判別するには、sipStatsSubscribeOuts カウンタの値からこのカウンタの値を減算します。
RetryUpdate	このカウンタは、SIP デバイスが送信した UPDATE の再試行回数の合計を表します。最初の UPDATE の試行回数を判別するには、sipStatsUpdateOuts カウンタの値からこのカウンタの値を減算します。
SCBsAllocated	このカウンタは、SIP スタックで現在使用中の Subscription Control Blocks (SCB) の数を表します。各登録で 1 つの SCB を使用します。
ServerFailedClassIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した 5xx クラス SIP 応答の総数を表します。この数には再送信が含まれます。このクラスの応答は、クライアント機能を提供する SIP デバイスが失敗応答を受信したことを示します。
ServerFailedClassOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した 5xx クラス SIP 応答の総数を表します。この数には再送信が含まれます。このクラスの応答は、サーバ機能を提供する SIP デバイスが失敗応答を受信したことを示します。
SIPGenericCounter1	Cisco Engineering Special ビルドによる指示がない限り、このカウンタは使用しないでください。シスコは、診断の目的でこのカウンタの情報を使用します。
SIPGenericCounter2	Cisco Engineering Special ビルドによる指示がない限り、このカウンタは使用しないでください。シスコは、診断の目的でこのカウンタの情報を使用します。
SIPGenericCounter3	Cisco Engineering Special ビルドによる指示がない限り、このカウンタは使用しないでください。シスコは、診断の目的でこのカウンタの情報を使用します。
SIPGenericCounter4	Cisco Engineering Special ビルドによる指示がない限り、このカウンタは使用しないでください。シスコは、診断の目的でこのカウンタの情報を使用します。

表 5-35 Cisco SIP Stack (続き)

カウンタ	カウンタの説明
SIPHandlerSDLQueueSignalsPresent	このカウンタは、SIPHandler コンポーネントの 4 つの SDL プライオリティ キューに現在ある SDL 信号の数を表します。SIPHandler コンポーネントには SIP スタックが含まれます。
StatusCode1xxIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した 1xx 応答メッセージ (再送信を含む) の総数を表します。このカウントには、次の 1xx 応答が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • 100 試行中 • 180 呼び出し中 • 181 コール転送中 • 182 キューイング済み • 183 セッション中
StatusCode1xxOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した 1xx 応答メッセージ (再送信を含む) の総数を表します。このカウントには、次の 1xx 応答が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • 100 試行中 • 180 呼び出し中 • 181 コール転送中 • 182 キューイング済み • 183 セッション中
StatusCode2xxIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した 2xx 応答メッセージ (再送信を含む) の総数を表します。このカウントには、次の 2xx 応答が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • 200 OK • 202 受理成功
StatusCode2xxOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した 2xx 応答メッセージ (再送信を含む) の総数を表します。このカウントには、次の 2xx 応答が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • 200 OK • 202 受理成功
StatusCode3xxins	このカウンタは、SIP デバイスが受信した 3xx 応答メッセージ (再送信を含む) の総数を表します。このカウントには、次の 3xx 応答が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • 300 複数の選択肢 • 301 永続的に移動 • 302 一時的に移動 • 303 非互換の帯域幅ユニット • 305 プロキシの使用 • 380 代替サービス
StatusCode302Outs	このカウンタは、SIP デバイスが送信した 302 (一時的に移動) 応答メッセージ (再送信を含む) の総数を表します。

表 5-35 Cisco SIP Stack (続き)

カウンタ	カウンタの説明
StatusCode4xxIns	<p>このカウンタは、SIP デバイスが受信した 4xx 応答メッセージ（再送信を含む）の総数を表します。このカウントには、次の 4xx 応答が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 400 不正な要求 • 401 未認証 • 402 支払いが必要 • 403 禁止 • 404 見つからない • 405 メソッドが許可されない • 406 受理されない • 407 プロキシ認証が必要 • 408 要求タイムアウト • 409 競合 • 410 消失 • 413 要求エンティティが大きすぎる • 414 Request-URI が長すぎる • 415 サポートされないメディア タイプ • 416 サポートされない URI スキーマ • 417 不明なリソース優先順位 • 420 不正な拡張子 • 422 セッション有効期限の値が小さすぎる • 423 間隔が短すぎる • 480 一時的な使用不可 • 481 コール/トランザクションが存在しない • 482 ループが検出された • 483 ホップが多すぎる • 484 アドレスが不完全 • 485 あいまい • 486 ここは通話中 • 487 要求終了 • 488 ここでは受理されない • 489 不正な登録イベント • 491 要求保留中

表 5-35 Cisco SIP Stack (続き)

カウンタ	カウンタの説明
StatusCode4xxOuts	<p>このカウンタは、SIP デバイスが送信した 4xx 応答メッセージ（再送信を含む）の総数を表します。このカウントには、次の 4xx 応答が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 400 不正な要求 • 401 未認証 • 402 支払いが必要 • 403 禁止 • 404 見つからない • 405 メソッドが許可されない • 406 受理されない • 407 プロキシ認証が必要 • 408 要求タイムアウト • 409 競合 • 410 消失 • 413 要求エンティティが大きすぎる • 414 Request-URI が長すぎる • 415 サポートされないメディア タイプ • 416 サポートされない URI スキーマ • 417 不明なリソース優先順位 • 420 不正な拡張子 • 422 セッション有効期限の値が小さすぎる • 423 間隔が短すぎる • 480 一時的な使用不可 • 481 コール/トランザクションが存在しない • 482 ループが検出された • 483 ホップが多すぎる • 484 アドレスが不完全 • 485 あいまい • 486 ここは通話中 • 487 要求終了 • 488 ここでは受理されない • 489 不正な登録イベント • 491 要求保留中

表 5-35 Cisco SIP Stack (続き)

カウンタ	カウンタの説明
StatusCode5xxIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した 5xx 応答メッセージ（再送信を含む）の総数を表します。このカウンタには、次の 5xx 応答が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • 500 サーバの内部エラー • 501 実装されない • 502 不正なゲートウェイ • 503 サービス使用不可 • 504 サーバ タイムアウト • 505 未サポートのバージョン • 580 前提条件の失敗
StatusCode5xxOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した 5xx 応答メッセージ（再送信を含む）の総数を表します。このカウンタには、次の 5xx 応答が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • 500 サーバの内部エラー • 501 実装されない • 502 不正なゲートウェイ • 503 サービス使用不可 • 504 サーバ タイムアウト • 505 未サポートのバージョン • 580 前提条件の失敗
StatusCode6xxIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した 6xx 応答メッセージ（再送信を含む）の総数を表します。このカウンタには、次の 6xx 応答が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • 600 すべて通話中 • 603 拒否 • 604 どこにも存在しない • 606 受理されない
StatusCode6xxOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した 6xx 応答メッセージ（再送信を含む）の総数を表します。このカウンタには、次の 6xx 応答が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • 600 すべて通話中 • 603 拒否 • 604 どこにも存在しない • 606 受理されない
SubscribeIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した SUBSCRIBE 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
SubscribeOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した SUBSCRIBE 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
SuccessClassIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した 2xx クラス SIP 応答の総数を表します。この数には再送信が含まれます。このクラスの応答は、SIP 要求の正常な完了についての情報を提供します。

表 5-35 Cisco SIP Stack (続き)

カウンタ	カウンタの説明
SuccessClassOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した 2xx クラス SIP 応答の総数を表します。この数には再送信が含まれます。このクラスの応答は、SIP 要求の正常な完了についての情報を提供します。
SummaryRequestsIn	このカウンタは、SIP デバイスが受信した SIP 要求メッセージの総数を表します。この数には再送信が含まれます。
SummaryRequestsOut	このカウンタは、デバイスが送信した SIP 要求メッセージの総数を表します。この数には、このデバイスから発信するメッセージと、このデバイスでリレーするメッセージが含まれます。特定のメッセージが複数回送信されると、再送信として、または分岐（転送）の結果として再送されるメッセージなどのそれぞれの送信は、別々にカウントされます。
SummaryResponsesIn	このカウンタは、SIP デバイスが受信した SIP 応答メッセージの総数を表します。この数には再送信が含まれます。
SummaryResponsesOut	このカウンタは、SIP デバイスが送信（発信およびリレー）した SIP 応答メッセージの総数を表します。この数には再送信が含まれます。
UpdateIns	このカウンタは、SIP デバイスが受信した UPDATE 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。
UpdateOuts	このカウンタは、SIP デバイスが送信した UPDATE 要求の総数を表します。この数には再送信が含まれます。

Cisco SIP Station

Cisco SIP Station オブジェクトは、SIP 回線側デバイスについての情報を提供します。表 5-36 には、Cisco SIP Station のカウンタについての情報が示されています。

表 5-36 Cisco SIP Station

カウンタ	カウンタの説明
ConfigMismatchesPersistent	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager の最後の再起動以降に、TFTP サーバと Cisco Unified Communications Manager との設定バージョンの不一致が原因で、SIP を実行している電話機を永続的に登録できなかった回数を表します。このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が不一致を解決できず、手動操作（設定の更新やデバイスのリセットなど）が必要になるたびに増加します。
ConfigMismatchesTemporary	このカウンタは、Cisco CallManager サービスの最後の再起動以降に、TFTP サーバと Cisco Unified Communications Manager との設定バージョンの不一致が原因で、SIP を実行している電話機を一時的に登録できなかった回数を表します。このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が自動的に不一致を解決するたびに増加します。
DBTimeouts	このカウンタは、システムがデータベースからデバイス設定の取得を試行している間に、タイムアウトが発生したために失敗した新規登録の数を表します。
NewRegAccepted	このカウンタは、Cisco CallManager サービスの最後の再起動以降に、NewRegistration キューから削除されて処理された新しい REGISTRATION 要求の総数を表します。
NewRegQueueSize	このカウンタは、現在 NewRegistration キューにある REGISTRATION 要求の数を表します。デバイスから受信され、現在このキューに登録されていない REGISTRATION 要求は、処理される前にこのキューに配置されます。

表 5-36 Cisco SIP Station (続き)

カウンタ	カウンタの説明
NewRegRejected	このカウンタは、Cisco CallManager サービスの最後の再起動以降に、486 (ここでは通話中) 応答によって拒否され、NewRegistration キューに配置されなかった新しい REGISTRATION 要求の総数を表します。NewRegistration キューがプログラムされたサイズを超えると、REGISTRATION 要求は拒否されます。
TokensAccepted	このカウンタは、Cisco Communications Manager の最後の再起動以降に許可されたトークン要求の総数を表します。Cisco Unified Communications Manager は、未処理のトークンの数が Cisco CallManager の Maximum Phone Fallback Queue Depth サービス パラメータに指定された数を下回る限り、トークンを許可します。
TokensOutstanding	このカウンタは、トークンが許可されていても、まだ登録されていないデバイスの数を表します。登録する前に、より優先順位の高い Cisco Unified Communications Manager サーバに再接続しているデバイスに対してトークンを許可する必要があります。トークンは、Cisco Unified Communications Manager が、フェールオーバー後にオンラインに戻ったときに、登録要求によって過負荷にならないように保護します。
TokensRejected	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager の最後の再起動以降に拒否されたトークン要求の総数を表します。Cisco Unified Communications Manager は、未処理のトークンの数が Cisco CallManager の Maximum Phone Fallback Queue Depth サービス パラメータに指定された数を超えた場合に、トークン要求を拒否します。

Cisco SW Conf Bridge Device

Cisco SW Conference Bridge Device オブジェクトは、登録済みの Cisco ソフトウェア会議ブリッジデバイスについての情報を提供します。表 5-37 には、Cisco SW Conf Bridge Device のカウンタについての情報が示されています。

表 5-37 Cisco SW Conf Bridge Device

カウンタ	カウンタの説明
OutOfResources	このカウンタは、ソフトウェア会議デバイスから会議リソースの割り当てを試行して、すべてのリソースがすでに使用中であったために失敗した回数の合計を表します。
ResourceActive	このカウンタは、ソフトウェア会議デバイスで現在使用中の (アクティブな) リソースの数を表します。1 つのリソースは 1 つのストリームを表します。
ResourceAvailable	このカウンタは、非アクティブで、ソフトウェア会議デバイスで現在まだ使用可能なリソースの総数を表します。1 つのリソースは 1 つのストリームを表します。
ResourceTotal	このカウンタは、ソフトウェア会議デバイスが提供する会議リソースの総数を表します。1 つのリソースは 1 つのストリームを表します。このカウンタは、ResourceAvailable カウンタと ResourceActive カウンタを合計した数になります。
SWConferenceActive	このカウンタは、ソフトウェア会議デバイス上で現在アクティブな (使用中の) ソフトウェアベースの会議の数を表します。
SWConferenceCompleted	このカウンタは、ソフトウェア会議デバイス上に割り当てられ、開放された会議の総数を表します。会議は、最初のコールがブリッジに接続されたときに開始します。会議は、最後のコールがブリッジから接続解除されたときに完了します。

Cisco TFTP Server

Cisco Trivial File Transfer Protocol (TFTP; トリビアル ファイル転送プロトコル) Server オブジェクトは、Cisco TFTP サーバについての情報を提供します。表 5-38 には、Cisco TFTP Server のカウンタについての情報が示されています。

表 5-38 Cisco TFTP Server

カウンタ	カウンタの説明
BuildAbortCount	このカウンタは、Build all 要求を受信したときに、構築プロセスが中断された回数を表します。このカウンタは、グループ レベル変更通知の結果として、デバイス/ユニット/ソフトキー/ダイヤル ルールの構築が中断されたときに増加します。
BuildCount	このカウンタは、TFTP サービスの開始以降に、TFTP サーバが、すべてのデバイスに影響するデータベース変更通知に対応してすべての設定ファイルを構築した回数を表します。このカウンタは、TFTP サーバがすべての設定ファイルを新しく構築するたびに 1 つずつ増加します。
BuildDeviceCount	このカウンタは、すべての設定ファイルの最後の構築時に処理されたデバイスの数を表します。このカウンタは、デバイス変更通知の処理中にも更新されます。このカウンタは、新しいデバイスが追加されたときに増加し、既存のデバイスが削除されたときに減少します。
BuildDialruleCount	このカウンタは、設定ファイルの最後の構築時に処理されたダイヤル ルールの数を表します。このカウンタは、ダイヤル ルール変更通知の処理中にも更新されます。このカウンタは、新しいダイヤル ルールが追加されたときに増加し、既存のダイヤル ルールが削除されたときに減少します。
BuildDuration	このカウンタは、設定ファイルの最後の構築時に要した時間を秒単位で表します。
BuildSignCount	このカウンタは、セキュリティが有効な電話デバイスの数を表します。この電話デバイスの設定ファイルは、全設定ファイルの最後の構築時に、Cisco Unified Communications Manager サーバ キーでデジタル署名されています。このカウンタは、セキュリティが有効な電話デバイス変更通知の処理中にも更新されます。
BuildSoftKeyCount	このカウンタは、設定ファイルの最後の構築時に処理されたソフトキーの数を表します。このカウンタは、新しいソフトキーが追加されたときに増加し、既存のソフトキーが削除されたときに減少します。
BuildUnitCount	このカウンタは、すべての設定ファイルの最後の構築時に処理されたゲートウェイの数を表します。このカウンタは、ユニット変更通知の処理中にも更新されます。このカウンタは、新しいゲートウェイが追加されたときに増加し、既存のゲートウェイが削除されたときに減少します。
ChangeNotifications	このカウンタは、TFTP サーバが受信したすべての Cisco Unified Communications Manager データベース変更通知の総数を表します。Cisco Unified CM の管理でデバイス設定が更新されるたびに、TFTP サーバにデータベース変更通知が送信され、更新されたデバイス用の XML ファイルを再構築します。
DeviceChangeNotifications	このカウンタは、TFTP サーバがデータベース変更通知を受信して、デバイスの設定ファイルの作成、更新、削除を行った回数を表します。
DialruleChangeNotifications	このカウンタは、TFTP サーバがデータベース変更通知を受信して、ダイヤル ルールの設定ファイルの作成、更新、削除を行った回数を表します。
EncryptCount	このカウンタは、暗号化された設定ファイルの数を表します。このカウンタは、設定ファイルが正常に暗号化されるたびに更新されます。

表 5-38 Cisco TFTP Server (続き)

カウンタ	カウンタの説明
GKFoundCount	このカウンタは、キャッシュ内で検出された GK ファイルの数を表します。このカウンタは、キャッシュ内で GK ファイルが検出されるたびに更新されます。
GKNotFoundCount	このカウンタは、キャッシュ内で検出されなかった GK ファイルの数を表します。このカウンタは、GK ファイル取得要求に対して、キャッシュ内でファイルが見つからないことを示す結果が出るたびに更新されます。
HeartBeat	このカウンタは、TFTP サーバのハートビートを表します。このカウンタが増加している場合は、TFTP サーバが稼動中であることを示します。カウンタが増加していない場合は、TFTP サーバがダウンしていることを示します。
HttpConnectRequests	このカウンタは、現在 HTTP GET ファイル要求を行っているクライアントの数を表します。
HttpRequests	このカウンタは、HTTP サーバが処理したファイル要求 (XML 設定ファイル、電話機ファームウェア ファイル、オーディオ ファイルなどに対する要求) の総数を表します。このカウンタは、HTTP サービス開始以降の RequestsProcessed、RequestsNotFound、RequestsOverflow、RequestsAborted、RequestsInProgress の各カウンタを合計した数になります。
HttpRequestsAborted	このカウンタは、HTTP サーバが予期せずに取り消した (中断した) HTTP 要求の総数を表します。(装置の電源が入っていないなどの理由で) 要求側デバイスに到達できない場合、またはネットワーク接続の問題によりファイル転送が中断された場合は、要求が中断される可能性があります。
HttpRequestsNotFound	このカウンタは、要求されたファイルが検出されなかった場合の HTTP 要求の総数を表します。HTTP サーバが要求されたファイルを検出しない場合、メッセージが要求側デバイスに送信されます。
HttpRequestsOverflow	このカウンタは、許容されるクライアント接続が最大数に達したときに拒否された HTTP 要求の総数を表します。TFTP サーバが設定ファイルを構築中に要求を受信したか、他のリソース制限による拒否の可能性があります。Cisco TFTP 拡張サービス パラメータの Maximum Serving Count は、許容される接続の最大数を設定します。
HttpRequestsProcessed	このカウンタは、HTTP サーバが正常に処理した HTTP 要求の総数を表します。
HttpServedFromDisk	このカウンタは、ディスク上に存在し、メモリにキャッシュされないファイルに関して HTTP サーバが完了した要求の数を表します。
LDFoundCount	このカウンタは、キャッシュ内で検出された LD ファイルの数を表します。このカウンタは、キャッシュ メモリ内で LD ファイルが検出されるたびに更新されます。
LDNotFoundCount	このカウンタは、キャッシュ メモリ内で検出されなかった LD ファイルの数を表します。このカウンタは、LD ファイル取得要求に対して、キャッシュ内でファイルが見つからないことを示す結果が出るたびに更新されます。
MaxServingCount	このカウンタは、TFTP で同時に処理できるクライアント接続の最大数を表します。Cisco TFTP 拡張サービス パラメータの Maximum Serving Count は、この値を設定します。
Requests	このカウンタは、TFTP サーバが処理するファイル要求 (XML 設定ファイル、電話機ファームウェア ファイル、オーディオ ファイルなどに対する要求) の総数を表します。このカウンタは、TFTP サービス開始以降の RequestsProcessed、RequestsNotFound、RequestsOverflow、RequestsAborted、RequestsInProgress の各カウンタを合計した数になります。

表 5-38 Cisco TFTP Server (続き)

カウンタ	カウンタの説明
RequestsAborted	このカウンタは、TFTP サーバが予期せずに取り消した (中断した) TFTP 要求の総数を表します。(装置の電源が入っていないなどの理由で) 要求側デバイスに到達できない場合、またはネットワーク接続の問題によりファイル転送が中断された場合は、要求が中断される可能性があります。
RequestsInProgress	このカウンタは、TFTP サーバが現在処理しているファイル要求の数を表します。このカウンタは、新しいファイル要求のたびに増加し、ファイル要求が完了するたびに減少します。このカウンタは、TFTP サーバの現在の負荷を示します。
RequestsNotFound	このカウンタは、要求されたファイルが検出されなかった場合の TFTP 要求の総数を表します。TFTP サーバが要求されたファイルを検出しない場合、メッセージが要求側デバイスに送信されます。このカウンタがセキュアに設定されたクラスタ内で増加する場合、通常、このイベントはエラー状態を示します。ただし、クラスタが非セキュアに設定されている場合、CTL ファイルが存在しない (検出されない) ことが普通であり、その結果、要求側デバイスにメッセージが送信され、このカウンタがそれに対応して増加します。非セキュアに設定されたクラスタの場合、これは通常の状態であり、エラー状態を示すものではありません。
RequestsOverflow	このカウンタは、許容されるクライアント接続の最大数を超過したために拒否された TFTP 要求、TFTP サーバが設定ファイルを構築中に要求を受信したために拒否された TFTP 要求、または他のリソース制限により拒否された TFTP 要求の総数を表します。Cisco TFTP 拡張サービス パラメータの Maximum Serving Count は、許容される接続の最大数を設定します。
RequestsProcessed	このカウンタは、TFTP サーバが正常に処理した TFTP 要求の総数を表します。
SegmentsAcknowledged	このカウンタは、クライアント デバイスが確認応答したデータ セグメントの総数を表します。ファイルは 512 バイトのデータ セグメントで要求側デバイスに送信され、デバイスは、512 バイトの各セグメントに対する確認応答メッセージを TFTP サーバに送信します。先行データ セグメントの確認応答の受信時に追加の各データ セグメントが送信されます。これは、ファイル全体が要求側デバイスに正常に転送されるまで続きます。
SegmentsFromDisk	このカウンタは、TFTP サーバがファイルを処理する間にディスク上のファイルから読み取ったデータ セグメントの数を表します。
SegmentSent	このカウンタは、TFTP サーバが送信したデータ セグメントの総数を表します。ファイルは、512 バイトのデータ セグメントで要求側デバイスに送信されます。
SEPFoundCount	このカウンタは、キャッシュ内で正常に検出された SEP ファイルの数を表します。このカウンタは、キャッシュ内で SEP ファイルが検出されるたびに更新されます。
SEPNotFoundCount	このカウンタは、キャッシュ内で検出されなかった SEP ファイルの数を表します。このカウンタは、SEP ファイル取得要求に対して、キャッシュ メモリ内でファイルが検出されないことを示す結果が出るたびに更新されます。
SIPFoundCount	このカウンタは、キャッシュ内で正常に検出された SIP ファイルの数を表します。このカウンタは、キャッシュ内で SIP ファイルが検出されるたびに更新されます。
SIPNotFoundCount	このカウンタは、キャッシュ内で検出されなかった SIP ファイルの数を表します。このカウンタは、SIP ファイル取得要求に対して、キャッシュ メモリ内でファイルが検出されないことを示す結果が出るたびに更新されます。

表 5-38 Cisco TFTP Server (続き)

カウンタ	カウンタの説明
SoftkeyChangeNotifications	このカウンタは、TFTP サーバがデータベース変更通知を受信して、ソフトキーの設定ファイルの作成、更新、削除を行った回数を表示します。
UnitChangeNotifications	このカウンタは、TFTP サーバがデータベース変更通知を受信して、ゲートウェイ関連の設定ファイルの作成、更新、削除を行った回数を表示します。

Cisco Transcode Device

Cisco Transcode Device オブジェクトは、登録済みの Cisco トランスコーディング デバイスについての情報を提供します。表 5-39 には、Cisco Transcode Device のカウンタについての情報が示されています。

表 5-39 Cisco Transcode Device

カウンタ	カウンタの説明
OutOfResources	このカウンタは、トランスコーダ デバイスからトランスコーダ リソースの割り当てを試行して、すべてのリソースがすでに使用中であるなどの理由で失敗した回数の合計を表示します。
ResourceActive	このカウンタは、トランスコーダ デバイスに対して現在使用中の (アクティブな) トランスコーダ リソースの数を表します。 各トランスコーダ リソースは、2 つのストリームを使用します。
ResourceAvailable	このカウンタは、非アクティブで、トランスコーダ デバイスで現在まだ使用可能なリソースの総数を表します。 各トランスコーダ リソースは、2 つのストリームを使用します。
ResourceTotal	このカウンタは、トランスコーダ デバイスが提供したトランスコーダ リソースの総数を表します。このカウンタは、ResourceActive カウンタと ResourceAvailable カウンタを合計した数になります。

Cisco Video Conference Bridge

Cisco Video Conference Bridge オブジェクトは、登録済みの Cisco ビデオ会議ブリッジ デバイスについての情報を提供します。表 5-40 には、Cisco Video Conference Bridge デバイスのカウンタについての情報が示されています。

表 5-40 Cisco Video Conference Bridge

カウンタ	カウンタの説明
ConferencesActive	このカウンタは、ビデオ会議ブリッジ デバイス上で現在アクティブな (使用中の) ビデオ会議の総数を表します。システムでは、最初のコールがブリッジに接続されたときに会議がアクティブになるよう指定されています。
ConferencesAvailable	このカウンタは、非アクティブで、ビデオ会議デバイス上でまだ使用可能なビデオ会議の数を表します。
ConferencesCompleted	このカウンタは、ビデオ会議デバイス上に割り当てられ、開放されたビデオ会議の総数を表します。会議は、最初のコールがブリッジに接続されたときに開始します。会議は、最後のコールがブリッジから接続解除されたときに完了します。
ConferencesTotal	このカウンタは、ビデオ会議デバイスに対して設定されているビデオ会議の総数を表します。

表 5-40 Cisco Video Conference Bridge (続き)

カウンタ	カウンタの説明
OutOfConferences	このカウンタは、ビデオ会議デバイスからビデオ会議の開始を試行して、許可されているアクティブな会議の最大数 (TotalConferences カウンタで指定) をデバイスがすでに使用しているために失敗した回数の合計を表します。
OutOfResources	このカウンタは、ビデオ会議デバイスから会議リソースの割り当てを試行して、すべてのリソースがすでに使用中であるなどの理由で失敗した回数の合計を表します。
ResourceActive	このカウンタは、ビデオ会議ブリッジデバイス上で現在アクティブな (使用中の) リソースの総数を表します。参加者 1 名につき、1 つのリソースが使用されます。
ResourceAvailable	このカウンタは、非アクティブで、ビデオ会議ブリッジデバイスへの追加の参加者を処理するデバイスでまだ使用可能なリソースの総数を表します。
ResourceTotal	このカウンタは、ビデオ会議ブリッジデバイス上に設定されているリソースの総数を表します。参加者 1 名につき、1 つのリソースが使用されます。

Cisco Web Dialer

Cisco Web Dialer オブジェクトは、Cisco Web Dialer アプリケーションと Redirector Servlet についての情報を提供します。表 5-41 には、Cisco Web Dialer のカウンタについての情報が示されています。

表 5-41 Cisco Web Dialer

カウンタ	カウンタの説明
CallsCompleted	このカウンタは、Cisco Web Dialer アプリケーションが正常に完了した Make Call 要求と End Call 要求の数を表します。
CallsFailed	このカウンタは、失敗した Make Call 要求と End Call 要求の数を表します。
RedirectorSessionsHandled	このカウンタは、サービスを最後に開始してから Redirector Servlet が処理した HTTP セッションの総数を表します。
RedirectorSessionsInProgress	このカウンタは、現在 Redirector Servlet によって処理されている HTTP セッションの数を表します。
RequestsCompleted	このカウンタは、Web Dialer Servlet が正常に完了した Make Call 要求と End Call 要求の数を表します。
RequestsFailed	このカウンタは、失敗した Make Call 要求と End Call 要求の数を表します。
SessionsHandled	このカウンタは、サービスを最後に開始してから Cisco Web Dialer Servlet が処理した CTI セッションの総数を表します。
SessionsInProgress	このカウンタは、Cisco Web Dialer Servlet が現在処理している CTI セッションの数を表します。

Cisco WSM Connector

WSM オブジェクトは、Cisco Unified Communications Manager 上で設定される WSMConnector についての情報を提供します。各 WSMConnector は、物理的な Motorola WSM デバイスを表します。表 5-42 には、Cisco WSM Connector のカウンタについての情報が示されています。

表 5-42 Cisco WSM Connector

カウンタ	カウンタの説明
CallsActive	このカウンタは、WSMConnector デバイス上で現在アクティブな（使用中の）コールの数を表します。
CallsAttempted	このカウンタは、WSMConnector デバイス上で試行されたコールの数を表します。成功したコールの試行と失敗したコールの試行の両方が含まれます。
CallsCompleted	このカウンタは、WSMConnector デバイスを介して接続された（音声パスが確立された）コールの数を表します。このカウンタは、コールが終了したときに増加します。
CallsInProgress	このカウンタは、WSMConnector デバイス上で現在進行中のコールの数を表します。この数にはすべてのアクティブ コールが含まれます。CallsInProgress の数が CallsActive の数と等しい場合は、すべてのコールが接続されていることを示します。
DMMSRegistered	このカウンタは、WSM に登録された DMMS 加入者の数を表します。

システムの PerfMon オブジェクトと PerfMon カウンタ

この項では、Cisco Unified Communications Manager システムの PerfMon オブジェクトと PerfMon カウンタについて説明します。

Cisco Tomcat Connector

Tomcat Hypertext Transport Protocol (HTTP; ハイパーテキスト転送プロトコル) /HTTP Secure (HTTPS) Connector オブジェクトは、Tomcat コネクタについての情報を提供します。Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Communications Manager に関連した Web ページへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL; セキュア ソケット レイヤ) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は `https://<IP Address>:8443`、非 SSL の場合は `http://<IP Address>:8080` になります。表 5-43 には、Tomcat HTTP Connector のカウンタについての情報が示されています。

表 5-43 Cisco Tomcat Connector

カウンタ	カウンタの説明
Errors	このカウンタは、コネクタで発生した HTTP エラー（401（未認証）など）の総数を表します。Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Communications Manager に関連したウィンドウへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は https://<IP Address>:8443、非 SSL の場合は http://<IP Address>:8080 になります。
MBytesReceived	このカウンタは、コネクタが受信したデータの量を表します。Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Communications Manager に関連したウィンドウへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は https://<IP Address>:8443、非 SSL の場合は http://<IP Address>:8080 になります。
MBytesSent	このコネクタは、コネクタが送信したデータの量を表します。Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Communications Manager に関連したウィンドウへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は https://<IP Address>:8443、非 SSL の場合は http://<IP Address>:8080 になります。
Requests	このカウンタは、コネクタが処理した要求の総数を表します。Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Communications Manager に関連したウィンドウへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は https://<IP Address>:8443、非 SSL の場合は http://<IP Address>:8080 になります。
ThreadsTotal	このカウンタは、使用可能なスレッドと使用中のスレッドを含む、コネクタの要求処理スレッドの現在の総数を表します。Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Communications Manager に関連したウィンドウへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は https://<IP Address>:8443、非 SSL の場合は http://<IP Address>:8080 になります。

表 5-43 Cisco Tomcat Connector (続き)

カウンタ	カウンタの説明
ThreadsMax	<p>このカウンタは、コネクタの要求処理スレッドの最大数を表します。Cisco Unified Communications Manager 関連のウィンドウで着信する各要求は、その要求の期間中、1 つのスレッドを必要とします。現在使用可能な要求処理スレッドで処理できる数以上の同時要求を受信すると、このカウンタに示される設定最大数まで追加のスレッドが作成されます。さらに別の同時要求を受信すると、それらの要求は、内部で指定された最大数になるまで、コネクタで作成されたサーバソケット内に累積されます。それより多い同時要求は、それらの要求を処理するリソースが使用可能になるまで、接続拒否メッセージを受け取ります。</p> <p>Tomcat HTTP コネクタは、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Communications Manager に関連したウィンドウへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat HTTP Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は <code>https://<IP Address>:8443</code>、非 SSL の場合は <code>http://<IP Address>:8080</code> になります。</p>
ThreadsBusy	<p>このカウンタは、コネクタのビジイー状態/使用中の要求処理スレッドの現在の数を表します。Tomcat Connector は、要求を受信して応答を送信するエンドポイントを表します。このコネクタは、Cisco Unified Communications Manager に関連した Web ページへのアクセス時に発生する HTTP/HTTPS 要求の処理と HTTP/HTTPS 応答の送信を行います。Web アプリケーションでの URL の Secure Socket Layer (SSL) ステータスは、各 Tomcat Connector のインスタンス名の基準になります。たとえば、SSL の場合は <code>https://<IP Address>:8443</code>、非 SSL の場合は <code>http://<IP Address>:8080</code> になります。</p>

Cisco Tomcat JVM

Cisco Tomcat Java Virtual Machine (JVM) オブジェクトは、Tomcat JVM についての情報を提供しません。Tomcat JVM は、特に Cisco Unified CM の管理、Cisco Unified Serviceability、Cisco Unity Connection の管理 などの Cisco Unified Communications Manager に関連した Web アプリケーションで使用される共通リソース メモリのプールを表します。表 5-44 には、Tomcat JVM のカウンタについての情報が示されています。

表 5-44 Tomcat JVM

カウンタ	カウンタの説明
KBytesMemoryFree	このカウンタは、Tomcat Java Virtual Machine の動的メモリ ブロック（ヒープメモリ）の空き容量を表します。動的メモリ ブロックには、Tomcat とその Web アプリケーション（Cisco Unified CM の管理、Cisco Unified Serviceability、Cisco Unity Connection など）で作成されるすべてのオブジェクトが保存されます。動的メモリの空き容量が少なくなると、追加のメモリが自動的に割り当てられ、(KbytesMemoryTotal カウンタによって表される) 合計メモリ サイズが、(KbytesMemoryMax カウンタによって表される) 最大容量まで増加します。使用中のメモリ容量は、KbytesMemoryTotal から KBytesMemoryFree の値を減算することで判断できます。
KBytesMemoryMax	このカウンタは、Tomcat Java Virtual Machine の動的メモリ ブロック（ヒープメモリ）の空き容量を表します。動的メモリ ブロックには、Tomcat とその Web アプリケーション（Cisco Unified CM の管理、Cisco Unified Serviceability、Cisco Unity Connection の管理 など）で作成されるすべてのオブジェクトが保存されます。
KBytesMemoryTotal	このカウンタは、空きメモリと使用中メモリを含む、Tomcat Java Virtual Machine の現在の動的メモリ ブロックの合計サイズを表します。動的メモリ ブロックには、Tomcat とその Web アプリケーション（Cisco Unified CM の管理、Cisco Unified Serviceability、Cisco Unity Connection の管理 など）で作成されるすべてのオブジェクトが保存されます。

Cisco Tomcat Web Application

Cisco Tomcat Web Application オブジェクトは、Cisco Unified Communications Manager Web アプリケーションの実行方法についての情報を提供します。Web アプリケーションの URL は、各 Tomcat Web Application のインスタンス名の基準になります。たとえば、Cisco Unified CM の管理 (<https://<IP Address>:8443/ccmadmin>) は ccmadmin によって識別され、Cisco Unified Serviceability は cmsservice によって識別され、Cisco Unified Communications Manager User Options は cmuser によって識別され、Cisco Unity Connection の管理 (<https://<IP Address>:8443/cuadmin>) は cuadmin によって識別され、拡張子を持たない URL (<https://<IP Address>:8443> や <http://<IP Address>:8080> など) は _root によって識別されます。表 5-45 には、Tomcat Web Application のカウンタについての情報が示されています。

表 5-45 Tomcat Web Application

カウンタ	カウンタの説明
Errors	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager に関連した Web アプリケーションで発生した HTTP エラー (401 (未認証) など) の総数を表します。Web アプリケーションの URL は、各 Tomcat Web Application のインスタンス名の基準になります。たとえば、Cisco Unified CM の管理 (https://<IP Address>:8443/ccadmin) は ccadmin によって識別され、Cisco Unified Serviceability は cmsservice によって識別され、Cisco Unified Communications Manager User Options は cmuser によって識別され、Cisco Unity Connection の管理 (https://<IP Address>:8443/cuadmin) は cuadmin によって識別され、拡張子を持たない URL (https://<IP Address>:8443 や http://<IP Address>:8080 など) は _root によって識別されます。
Requests	このカウンタは、Web アプリケーションが処理する要求の総数を表します。Requests カウンタは、Web アプリケーションにアクセスするたびに増加します。Web アプリケーションの URL は、各 Tomcat Web Application のインスタンス名の基準になります。たとえば、Cisco Unified CM の管理 (https://<IP Address>:8443/ccadmin) は ccadmin によって識別され、Cisco Unified Serviceability は cmsservice によって識別され、Cisco Unified Communications Manager User Options は cmuser によって識別され、Cisco Unity Connection の管理 (https://<IP Address>:8443/cuadmin) は cuadmin によって識別され、拡張子を持たない URL (https://<IP Address>:8443 や http://<IP Address>:8080 など) は _root によって識別されます。
SessionsActive	このカウンタは、Web アプリケーションが現在アクティブ (使用中) になっているセッション数を表します。Web アプリケーションの URL は、各 Tomcat Web Application のインスタンス名の基準になります。たとえば、Cisco Unified CM の管理 (https://<IP Address>:8443/ccadmin) は ccadmin によって識別され、Cisco Unified Serviceability は cmsservice によって識別され、Cisco Unified Communications Manager User Options は cmuser によって識別され、Cisco Unity Connection の管理 (https://<IP Address>:8443/cuadmin) は cuadmin によって識別され、拡張子を持たない URL (https://<IP Address>:8443 や http://<IP Address>:8080 など) は _root によって識別されます。

Database Change Notification Client

Database Change Notification Client オブジェクトは、変更通知クライアントについての情報を提供します。表 5-46 には、Database Change Notification Client のカウンタについての情報が示されています。

表 5-46 Database Change Notification Client

カウンタ	カウンタの説明
MessagesProcessed	このカウンタは、処理されたデータベース変更通知の数を表します。このカウンタは、15 秒ごとに更新されます。
MessagesProcessing	このカウンタは、現在処理中、またはこのクライアントの変更通知キューで処理待ち状態にある変更通知メッセージの数を表します。このカウンタは、15 秒ごとに更新されます。
QueueHeadPointer	このカウンタは、変更通知キューへのヘッドポインタを表します。ヘッドポインタは、変更通知キュー内の開始ポイントとして機能します。キュー内の通知数は、テールポインタ値からヘッドポインタ値を減算することで判断できます。デフォルトでは、このカウンタは 15 秒ごとに更新されます。

表 5-46 Database Change Notification Client (続き)

カウンタ	カウンタの説明
QueueMax	このカウンタは、このクライアントで処理される変更通知メッセージの最大数を表します。このカウンタは、Cisco Database Layer Monitor サービスの最後の再起動時から累積されます。
QueueTailPointer	このカウンタは、変更通知キューへのテールポインタを表します。テールポインタは、変更通知キュー内の終了ポイントを表します。キュー内の通知数は、テールポインタ値からヘッドポインタ値を減算することで判断できます。デフォルトでは、このカウンタは 15 秒ごとに更新されます。
TablesSubscribed	このカウンタは、クライアントが登録しているテーブルの数を表します。

Database Change Notification Server

Database Change Notification Server オブジェクトは、さまざまな変更通知関連の統計情報を提供します。表 5-47 には、Database Change Notification Server のカウンタについての情報が示されています。

表 5-47 Database Change Notification Server

カウンタ	カウンタの説明
Clients	このカウンタは、変更を通知するために登録されている変更通知クライアント (サービス/サブレット) の数を表します。
Queue Delay	このカウンタは、変更通知プロセスで処理するメッセージがあるにもかかわらず、メッセージが処理されていない時間を秒単位で表します。この条件は、次の場合に当てはまります。 <ul style="list-style-type: none"> Change Notification Requests Queued in Database (QueuedRequestsInDB) と Change Notification Requests Queued in Memory (QueuedRequestsInMemory) がゼロではない場合、または Latest Change Notification Messages Processed のカウントが変更されていない場合のいずれか。 この条件は、15 秒ごとに確認されます。
QueuedRequestsInDB	このカウンタは、(共有メモリのキューに入らずに) 直接 TCP/IP 接続を介して通知された、DBCNQueue (Database Change Notification Queue) テーブルに存在する変更通知レコードの数を表します。このカウンタは、15 秒ごとに更新されます。
QueuedRequestsInMemory	このカウンタは、共用メモリのキューに入る変更通知要求の数を表します。

Database Change Notification Subscription

Database Change Notification Subscription オブジェクトは、クライアントが変更通知を受信するテーブルの名前を表示します。

SubscribedTable オブジェクトは、変更通知を受信するサービスまたはサブレットを含んだテーブルを表示します。カウンタは増加しないため、この表示は参考目的のみに使用されます。

Database Local DSN

Database Local Data Source Name (DSN) オブジェクトと LocalDSN カウンタは、ローカルマシンの DSN 情報を提供します。表 5-48 には、Database Local DSN についての情報が示されています。

表 5-48 Database Local Data Source Name

カウンタ	カウンタの説明
CcmDbSpace_Used	このカウンタは、消費されている Ccm DbSpace の容量を表します。
CcmtempDbSpace_Used	このカウンタは、消費されている Ccmtemp DbSpace の容量を表します。
CNDbSpace_Used	このカウンタは、消費された CN dbspace の比率を表します。
LocalDSN	このカウンタは、ローカル マシンから参照されているデータ ソース名 (DSN) を表します。
SharedMemory_Free	このカウンタは、空きのある共有メモリの合計を表します。
SharedMemory_Used	このカウンタは、使用されている共有メモリの合計を表します。
RootDbSpace_Used	このカウンタは、消費されている RootDbSpace の容量を表します。

DB User Host Information Counters

DB User Host Information オブジェクトは、DB User Host についての情報を提供します。

DB:User:Host Instance オブジェクトは、DB:User:Host の各インスタンスの接続数を表示します。

Enterprise Replication DBSpace Monitors

Enterprise Replication DBSpace Monitors オブジェクトは、さまざまな ER DbSpace の使用状況を表示します。表 5-49 には、Enterprise Replication DBSpace Monitors についての情報が示されています。

表 5-49 Enterprise Replication DBSpace Monitors

カウンタ	カウンタの説明
ERDbSpace_Used	このカウンタは、消費された Enterprise Replication DbSpace の容量を表します。
ERSBDbSpace_Used	このカウンタは、消費された ERDbSpace の容量を表します。

Enterprise Replication Perfmon Counters

Enterprise Replication Perfmon Counter オブジェクトは、さまざまな複製カウンタについての情報を提供します。ServerName:ReplicationQueueDepth カウンタは、サーバ名に続いて、複製キューの項目数を表示します。

IP

IP オブジェクトは、システムの IP 統計についての情報を提供します。表 5-50 には、IP のカウンタについての情報が示されています。

表 5-50 IP

カウンタ	カウンタの説明
Frag Creates	このカウンタは、このエンティティで生成された IP データグラム フラグメントの数を表します。
Frag Fails	このカウンタは、Do not Fragment フラグが設定されたデータグラムの場合など、データグラムをフラグメント化できなかったためにこのエンティティで破棄された IP データグラムの数を表します。

表 5-50 IP (続き)

カウンタ	カウンタの説明
Frag OKs	このカウンタは、このエンティティで正常にフラグメント化された IP データグラムの数を表示します。
In Delivers	このカウンタは、IP ユーザ プロトコルに配信された入力データグラムの数を表示します。これには Internet Control Message Protocol (ICMP; インターネット制御メッセージプロトコル) が含まれます。
In Discards	このカウンタは、問題が発生していなくても破棄された入力 IP データグラムの数を表示します。バッファ領域の不足が考えられる原因の 1 つです。このカウンタには、再構成の待機中に破棄されたデータグラムの数は含まれていません。
In HdrErrors	このカウンタは、ヘッダー エラーによって破棄された入力データグラムの数を表示します。これには、不正なチェックサム、バージョン番号の不一致、他の形式エラー、存続可能時間の超過、および IP オプションの処理中に発見されたその他のエラーが含まれます。
In Receives	このカウンタは、すべてのネットワーク インターフェイスから受信された入力データグラムの数を表示します。このカウンタには、エラーと共に受信されたデータグラムも含まれます。
In UnknownProtos	このカウンタは、正常に受信されたものの、プロトコルが不明またはサポートされないために廃棄されたローカル アドレス宛てのデータグラムの数を表示します。
InOut Requests	このカウンタは、受信された着信 IP データグラムの数および送信された発信 IP データグラムの数を表示します。
Out Discards	このカウンタは、送信されずに破棄された出力 IP データグラムの数を表示します。バッファ領域の不足が考えられる原因の 1 つです。
Out Requests	このカウンタは、ICMP を含むローカル IP プロトコルが、要求送信で IP に与える IP データグラムの総数を表示します。このカウンタには、ForwDatagrams でカウントされたデータグラムの数は含まれません。
Reasm Fails	このカウンタは、タイムアウトやエラーなど、IP 再構成アルゴリズムによって検出された IP 再構成の失敗の回数を表示します。このカウンタは、破棄された IP フラグメントの数を表示しません。RFC 815 のアルゴリズムなどの一部のアルゴリズムでは、受信するときにフラグメントを結合するので、フラグメントの数を追跡できなくなる可能性があるためです。
Reasm OKs	このカウンタは、正常に再構成された IP データグラムの数を表示します。
Reasm Reqds	このカウンタは、このエンティティで再構成が必要だった受信 IP フラグメントの数を表示します。

Memory

Memory オブジェクトは、サーバの物理メモリとスワップメモリの使用状況についての情報を提供します。表 5-51 には、Memory のカウンタについての情報が示されています。

表 5-51 Memory

カウンタ	カウンタの説明
% Mem Used	このカウンタは、システムの物理メモリの使用率を比率で表示します。カウンタの値は、 $(\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes}) / \text{Total KBytes}$ で計算される値と等しく、 $\text{Used KBytes} / \text{Total KBytes}$ で計算される値にも一致します。
% Page Usage	このカウンタは、アクティブなページの比率を表します。
% VM Used	このカウンタは、システムの仮想メモリの使用率を比率で表示します。カウンタの値は、 $(\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared KBytes} + \text{Used Swap Kbytes}) / (\text{Total KBytes} + \text{Total Swap Kbytes})$ で計算される値と等しく、 $\text{Used VM KBytes} / \text{Total VM Kbytes}$ で計算される値にも一致します。
Buffers KBytes	このカウンタは、システムのバッファ容量をキロバイト単位で表します。
Cached KBytes	このカウンタは、キャッシュされたメモリの容量をキロバイト単位で表します。
Free KBytes	このカウンタは、システムで使用可能なメモリの総量をキロバイト単位で表します。
Free Swap KBytes	このカウンタは、システムで使用可能な空きスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。
Faults Per Sec	このカウンタは、システムによるページフォールト（メジャーとマイナーの両方）の 1 秒あたりの件数を表します（2.5 以降のカーネルのみ）。一部のページフォールトは I/O がなくても解決できるため、この数は I/O を生成したページフォールトのカウントと一致しない場合があります。
Low Total	このカウンタは、カーネルの低（非ページ）メモリの合計を表します。
Low Free	このカウンタは、カーネルの低（非ページ）メモリの空き容量の合計を表します。
Major Faults Per Sec	このカウンタは、システムによるメジャー ページ フォールトの 1 秒あたりの件数を表します（2.5 以降のカーネルのみ）。メジャー ページ フォールトとは、ディスクからメモリ ページをロードする必要があるページフォールトを指します。
Pages	このカウンタは、ディスクから入力したページの数と、ディスクに出力されたページの数の合計を表します。
Pages Input	このカウンタは、ディスクから入力したページの数を表します。
Pages Input Per Sec	このカウンタは、ディスクから入力された 1 秒あたりのページのサイズの合計をキロバイト単位で表します。
Pages Output	このカウンタは、ディスクに出力されたページの数を表します。
Pages Output Per Sec	このカウンタは、ディスクに出力された 1 秒あたりのページのサイズの合計をキロバイト単位で表します。
Shared KBytes	このカウンタは、システムの共有メモリの容量をキロバイト単位で表します。
Total KBytes	このカウンタは、システムのメモリの総量をキロバイト単位で表します。
Total Swap KBytes	このカウンタは、システムのスワップ領域の総量をキロバイト単位で表します。
Total VM KBytes	このカウンタは、使用中のシステム物理メモリとスワップ領域（ $\text{Total Kbytes} + \text{Total Swap Kbytes}$ ）の総量をキロバイト単位で表します。
Used KBytes	このカウンタは、使用中のシステム物理メモリの容量をキロバイト単位で表します。Used KBytes カウンタの値は、 $\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes} - \text{Buffers KBytes} - \text{Cached KBytes} + \text{Shared Kbytes}$ で計算されます。Linux 環境では、top または free コマンド出力に表示される Used Kbytes の値は、 $\text{Total KBytes} - \text{Free KBytes}$ で計算される値に等しく、Buffers KBytes と Cached Kbytes の合計値も含まれます。

表 5-51 Memory (続き)

カウンタ	カウンタの説明
Used Swap KBytes	このカウンタは、システムで使用中のスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。
Used VM KBytes	このカウンタは、システム物理メモリと、使用中のスワップ領域の容量をキロバイト単位で表します。値は、Total KBytes - Free KBytes - Buffers KBytes - Cached KBytes + Shared KBytes + Used Swap Kbytes で計算されます。この値は、Used Mem KBytes + Used Swap Kbytes で計算される値と一致します。

Network Interface

Network Interface オブジェクトは、システムのネットワーク インターフェイスについての情報を提供します。表 5-52 には、Network Interface のカウンタについての情報が示されています。

表 5-52 Network Interface

カウンタ	カウンタの説明
Rx Bytes	このカウンタは、インターフェイスで受信したフレーミング文字を含めたバイト数を表します。
Rx Dropped	このカウンタは、エラーは検出されなかったものの、破棄するように選択されたインバウンド パケットの数を表します。これによって、上位レイヤのプロトコルにパケットが配信されなくなります。パケットを破棄してバッファ領域を開放することなどが理由として挙げられます。
Rx Errors	このカウンタは、エラーのために上位レイヤのプロトコルに配信できなかったインバウンド パケット (パケット指向インターフェイス) の数と、インバウンド送信ユニット (文字指向または固定長インターフェイス) の数を表します。
Rx Multicast	このカウンタは、このインターフェイスで受信したマルチキャスト パケットの数を表します。
Rx Packets	このカウンタは、このサブレイヤが上位サブレイヤに配信したパケットの数を表します。この数には、このサブレイヤでマルチキャストまたはブロードキャスト アドレスにアドレス指定されたパケットは含まれていません。
Total Bytes	このカウンタは、受信 (Rx) バイトと送信 (Tx) バイトの総数を表します。
Total Packets	このカウンタは、Rx パケットと Tx パケットの総数を表します。
Tx Bytes	このカウンタは、インターフェイスから送信されたフレーミング文字を含むオクテットの総数を表します。
Tx Dropped	このカウンタは、エラーは検出されなかったものの、破棄するように選択されたアウトバウンド パケットの数を表します。これによって、上位レイヤのプロトコルにパケットが配信されなくなります。パケットを破棄してバッファ領域を開放することなどが理由として挙げられます。
Tx Errors	このカウンタは、エラーのために送信できなかったアウトバウンド パケット (パケット指向インターフェイス) の数と、アウトバウンド送信ユニット (文字指向または固定長インターフェイス) の数を表します。
Tx Packets	このカウンタは、破棄されたものや送信されなかったものも含め、上位レベルのプロトコルが送信を要求したパケットの総数を表します。この数には、このサブレイヤでマルチキャストまたはブロードキャスト アドレスにアドレス指定されたパケットは含まれていません。
Tx QueueLen	このカウンタは、出力パケット キューの長さを (パケット単位で) 表します。

Number of Replicates Created and State of Replication

Number of Replicates Created and State of Replication オブジェクトは、システムのリアルタイム複製についての情報を提供します。表 5-53 には、複製カウンタについての情報が示されています。

表 5-53 Number of Replicates Created and State of Replication

カウンタ	カウンタの説明
Number of Replicates Created	このカウンタは、Informix が DB テーブル用に作成した複製の数を表示します。このカウンタは、複製のセットアップ中の情報を表示します。
Replicate_State	このカウンタは、複製の状態を示します。次の値が使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> 0：初期化中。サーバが定義されていない場合、または、サーバは定義されていてもテンプレートが完了していない場合、カウンタの値は 0 になります。 1：複製セットアップ スクリプトがこのノードから起動しました。CLI で <code>utils dbreplication</code> ステータスを実行し、エラーの発生場所と発生原因を特定することを推奨します。 2：複製は正しく機能しています。 3：複製は正しく機能していません。カウンタの値が 3 の場合、クラスタ内の複製が正しく機能していないことを示します。これは、クラスタ内の特定のサーバ上で複製が失敗したことを示すものではありません。CLI で <code>utils dbreplication</code> ステータスを実行し、エラーの発生場所と発生原因を特定することを推奨します。 4：複製のセットアップに失敗しました。

Partition

Partition オブジェクトは、システムのファイル システムとその使用状況についての情報を提供します。表 5-54 には、Partition のカウンタについての情報が示されています。予備パーティションが存在する場合、これらのカウンタはそのパーティションで使用することができます。

表 5-54 Partition

カウンタ	カウンタの説明
% CPU Time	このカウンタは、ディスクに対して発行された I/O 要求の処理にかかった CPU 時間を比率で表します。このカウンタは、カウンタの値が -1 になると無効になります。
% Used	このカウンタは、このファイル システムで使用中のディスク領域を比率で表します。
% Wait in Read	このカウンタは使用されません。このカウンタの代わりに <code>Await Read Time</code> カウンタが使用されます。このカウンタは、カウンタの値が -1 になると無効になります。
% Wait in Write	このカウンタは使用されません。このカウンタの代わりに <code>Await Write Time</code> カウンタが使用されます。このカウンタは、カウンタの値が -1 になると無効になります。
Await Read Time	このカウンタは、サービス対象のデバイスに対して発行する読み取り要求の平均所要時間をミリ秒単位で表します。このカウンタは、カウンタの値が -1 になると無効になります。

表 5-54 Partition (続き)

カウンタ	カウンタの説明
Await Time	このカウンタは、サービス対象のデバイスに対して発行する I/O 要求の平均所要時間をミリ秒単位で表します。これは、要求がキュー内に存在する時間と、要求を処理する時間の合計です。このカウンタは、カウンタの値が -1 になると無効になります。
Await Write Time	このカウンタは、サービス対象のデバイスに対して発行する書き込み要求の平均所要時間をミリ秒単位で表します。このカウンタは、カウンタの値が -1 になると無効になります。
Queue Length	このカウンタは、ディスクに発行された要求の平均キュー長を表します。このカウンタは、カウンタの値が -1 になると無効になります。
Read Bytes Per Sec	このカウンタは、ディスクから読み取られた 1 秒あたりのデータ量をバイト単位で表します。
Total Mbytes	このカウンタは、このファイル システムのディスク領域全体の容量をメガバイト単位で表します。
Used Mbytes	このカウンタは、このファイル システムで使用中のディスク領域の容量をメガバイト単位で表します。
Write Bytes Per Sec	このカウンタは、ディスクに書き込まれた 1 秒あたりのデータ量をバイト単位で表します。

Process

Process オブジェクトは、システムで実行されているプロセスについての情報を提供します。表 5-55 には、Process カウンタについての情報が示されています。

表 5-55 Process

カウンタ	カウンタの説明
% CPU Time	このカウンタは、最後に更新してから経過した CPU 時間におけるタスク占有率を、合計 CPU 時間に対する比率で表します。
% MemoryUsage	このカウンタは、タスクが現在使用している物理メモリを比率で表します。
Data Stack Size	このカウンタは、タスク メモリ ステータスのスタック サイズを表します。
Nice	このカウンタは、タスクの Nice 値を表します。負の Nice 値はプロセスの優先順位が高いことを示し、正の Nice 値はプロセスの優先順位が低いことを表します。Nice 値が 0 の場合、タスクの割り当てを判断するときに優先順位を調整しないでください。
Page Fault Count	このカウンタは、タスクで発生し、データをメモリにロードすることが必要になったメジャー ページ フォールトの数を表します。
PID	このカウンタは、タスク固有のプロセス ID を表します。この ID は定期的にラッピングされますが、値が 0 になることはありません。

表 5-55 Process (続き)

カウンタ	カウンタの説明
Process Status	このカウンタは、次のプロセス ステータスを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 0 : 実行中 • 1 : スリープ中 • 2 : 割り込み不能ディスク スリープ • 3 : ゾンビ • 4 : 停止 • 5 : 呼び出し中 • 6 : 不明
Shared Memory Size	このカウンタは、タスクが使用している共有メモリの容量 (キロバイト) を表示します。他のプロセスが同じメモリを共有することも可能です。
STime	このカウンタは、このプロセスがカーネル モードでスケジューリングしたシステム時間 (STime) を jiffy 単位で表示します。jiffy は CPU 時間の 1 単位に相当し、測定単位として使用されます。1 秒は 100 jiffy です。
Thread Count	このカウンタは、タスクで現在グループ化されているスレッドの数を表示します。負の値 (-1) は、このカウンタが現在使用不可になっていることを示します。これは、システムのプロセスとスレッドの数の合計がデフォルトのしきい値を超過したために、スレッド統計情報 (Thread オブジェクトのすべてのパフォーマンス カウンタ、および Process オブジェクトの Thread Count カウンタを含む) がオフになった場合に発生します。
Total CPU Time Used	このカウンタは、タスクの開始以降、タスクがユーザ モードとカーネル モードで使用した合計 CPU 時間を jiffy 単位で表示します。jiffy は CPU 時間の 1 単位に相当し、測定単位として使用されます。1 秒は 100 jiffy です。
UTime	このカウンタは、タスクがユーザ モードでスケジューリングした時間を jiffy 単位で表示します。
VmData	このカウンタは、タスクでのヒープの仮想メモリ使用状況をキロバイト (KB) 単位で表示します。
VmRSS	このカウンタは、現在の物理メモリにおける仮想メモリ (Vm) 常駐セット サイズ (RSS) をキロバイト (KB) 単位で表示します。これには、コード、データ、およびスタックが含まれます。
VmSize	このカウンタは、タスクでの仮想メモリの合計使用量をキロバイト (KB) 単位で表示します。これには、すべてのコード、データ、共有ライブラリ、およびスワップアウトされたページが含まれます (仮想イメージ = スワップ サイズ + 常駐サイズ)。
Wchan	このカウンタは、プロセスが待機しているチャンネル (システム コール) を表示します。

Processor

Processor オブジェクトは、さまざまなプロセッサ時間の使用状況を比率で提供します。表 5-56 には、Processor カウンタについての情報が示されています。

表 5-56 Processor

カウンタ	カウンタの説明
% CPU Time	このカウンタは、最後に更新してから経過した CPU 時間における、アイドル時間を除いたプロセッサの占有率を表示します。この占有率は、合計 CPU 時間に対する比率で表されます。
Idle Percentage	このカウンタは、プロセッサがアイドル状態になっており、未処理のディスク I/O 要求が存在しなかった時間を比率で表示します。
IOWait Percentage	このカウンタは、システムに未処理のディスク I/O 要求が存在し、同時にプロセッサがアイドル状態になっていた時間を比率で表します。
Irq Percentage	このカウンタは、デバイスに割り当てられる割り込み要求を実行するためにプロセッサが費やす時間（プロセッサがコンピュータに信号を送信するために費やす時間を含む）を比率で表します。
Nice Percentage	このカウンタは、プロセッサが、Nice 優先順位に従ってユーザ レベルで実行するために費やす時間を比率で表示します。
Softirq Percentage	このカウンタは、プロセッサが、CPU のパフォーマンスを向上させるために、ソフト IRQ の実行とタスク切り替えの延期に費やす時間を比率で表します。
System Percentage	このカウンタは、プロセッサがシステム（カーネル）レベルでプロセスを実行している時間を比率で表示します。
User Percentage	このカウンタは、プロセッサがユーザ（アプリケーション）レベルで通常のプロセスを実行している時間を比率で表示します。

System

System オブジェクトは、システムのファイル記述子についての情報を提供します。表 5-57 には、System カウンタについての情報が示されています。

表 5-57 System

カウンタ	カウンタの説明
Allocated FDs	このカウンタは、割り当てられたファイル記述子の総数を表します。
Being Used FDs	このカウンタは、システムで現在使用中のファイル記述子の数を表します。
Freed FDs	このカウンタは、システム上で割り当てられているファイル記述子のうち、開放されているファイル記述子の総数を表します。
Max FDs	このカウンタは、システムで許可されているファイル記述子の最大数を表します。
Total CPU Time	このカウンタは、システムが稼働している合計時間を jiffy 単位で表します。
Total Processes	このカウンタは、システム上のプロセスの総数を表します。
Total Threads	このカウンタは、システム上のスレッドの総数を表します。

TCP

TCP オブジェクトは、システムの TCP 統計についての情報を提供します。表 5-58 には、TCP のカウンタについての情報が示されています。

表 5-58 TCP

カウンタ	カウンタの説明
Active Opens	このカウンタは、TCP 接続が CLOSED 状態から SYS-SENT 状態へ直接遷移した回数を表示します。
Attempt Fails	このカウンタは、TCP 接続が SYN-RCVD または SYN-RCVD のいずれかの状態から CLOSED 状態に直接遷移した回数と、TCP 接続が SYS-RCVD 状態から LISTEN 状態に直接遷移した回数の合計を表示します。
Curr Estab	このカウンタは、現在 ESTABLISHED 状態または CLOSE-WAIT 状態になっている TCP 接続の数を表示します。
Estab Resets	このカウンタは、TCP 接続が、ESTABLISHED または CLOSE-WAIT のいずれかの状態から CLOSED 状態に直接遷移した回数を表示します。
In Segs	このカウンタは、受信したセグメント（エラー受信したセグメントを含む）の総数を表示します。この数には、現在確立されている接続で受信したセグメントのみが含まれます。
InOut Segs	このカウンタは、送信したセグメントの総数と受信したセグメントの総数を表示します。
Out Segs	このカウンタは、送信したセグメントの総数を表示します。このカウンタには、現在確立されている接続で送信されるセグメントのみが含まれますが、再送信されたオクテットは除外されます。
Passive Opens	このカウンタは、TCP 接続が LISTEN 状態から SYN-RCVD 状態に直接遷移した回数を表示します。
RetransSegs	このカウンタは、以前に送信されたオクテットが 1 つ以上含まれているために再送信されたセグメントの総数を表示します。

Thread

Thread オブジェクトは、システムで実行されているスレッドの一覧を表示します。表 5-59 には、Thread カウンタについての情報が示されています。

表 5-59 Thread

カウンタ	カウンタの説明
% CPU Time	このカウンタは、最後に更新してから経過した CPU 時間におけるスレッドの占有率を表示します。このカウンタは、占有率を合計 CPU 時間に対する比率で表現します。
PID	このカウンタは、スレッドリーダー プロセス ID を表示します。

Cisco Intercompany Media Engine のパフォーマンス オブジェクトおよびアラート

この項では、Cisco Unified Communications Manager サーバと Cisco Intercompany Media Engine サーバの両方の新しいパフォーマンス オブジェクトとアラートについて説明します。

この項で扱う情報は次のとおりです。

Cisco Intercompany Media Engine サーバ オブジェクト

パフォーマンス オブジェクト

Cisco Intercompany Media Engine 機能をサポートする Cisco Intercompany Media Engine サーバでは、次のパフォーマンス オブジェクトを使用できます。

- 「IME Configuration Manager」 (P.5-72)
- 「IME Server」 (P.5-72)
- 「IME Server System Performance」 (P.5-75)

IME Configuration Manager

IME Configuration Manager オブジェクトは、IME 分散キャッシュ証明書に関する情報を提供します。[表 5-60](#) には、Cisco IME の設定カウンタについての情報が示されています。

表 5-60 IME Configuration Manager

カウンタ	カウンタの説明
DaysUntilCertExpiry	このカウンタは、IME 分散キャッシュ証明書の期限が切れるまでの残り日数を表します。証明書は期限切れになる前に置き換える必要があります。このカウンタの値が 14 未満になると、値が 14 を上回るまで毎日 1 回アラートが生成されます。

IME Server

IME Server オブジェクトは、Cisco IME サーバに関する情報を提供します。[表 5-61](#) には、Cisco IME Server のカウンタについての情報が示されています。

表 5-61 IME Server

カウンタ	カウンタの説明
BlockedValidationOrigTLSLimit	このカウンタは、TLSValidationThreshold に達したためにブロックされた検証の合計数を表します。
BlockedValidationTermTLSLimit	このカウンタは、TLSValidationThreshold に達したためにブロックされた検証の合計数を表します。
ClientsRegistered	このカウンタは、現在 Cisco IME サーバに接続されている Cisco IME クライアントの数を表します。

表 5-61 IME Server (続き)

カウンタ	カウンタの説明
IMEDistributedCacheHealth	<p>このカウンタは、IME 分散キャッシュの健全性を示します。表示される可能性がある値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 (赤色) : IME 分散キャッシュが適切に動作していないことを警告します。たとえば、ネットワークが分割された後に Cisco IME が問題を解決できない場合などです。この場合、検証の試行が失敗する可能性があります。たとえば、Cisco IME サービスがネットワークに接続されておらず、ブートストラップ サーバに到達できない場合などです。 <p>値が赤色ステータスから変わるまで、1 時間に 1 回アラートが生成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 (黄色) : Cisco IME ネットワークで軽微な問題が発生していることを示します。たとえば、ブートストラップ サーバ間の接続の問題や Cisco IME ネットワークのその他の問題などです (Cisco IME アラームを調べて、ネットワークの問題を確認してください)。 2 (緑色) : Cisco IME が正常に動作していて、健全と見なせることを示します。
IMEDistributedCacheNodeCount	<p>このカウンタは、IME 分散キャッシュ内のノードの合計数の概算を示す整数です。各物理 Cisco IME サーバは複数のノードをホストするため、このカウンタは IME 分散キャッシュに参加する物理 Cisco IME サーバの数を直接表すわけではありません。このカウンタは、IME 分散キャッシュの健全性を示すことができます。たとえば、ある日に予想どおりの値 (たとえば 300) が表示され、その次の日に値が劇的に (たとえば 10 または 2 に) 下落する場合は、IME 分散キャッシュに問題がある可能性があります。</p>
IMEDistributedCacheQuota	<p>この IME サーバに接続されている Cisco Unified CM が IME 分散キャッシュに書き込むことができる個別の DID の数を表します。この数は、IME 分散キャッシュの全体的な設定と IME サーバにインストールされている IME ライセンスによって決まります。</p>
IMEDistributedCacheQuotaUsed	<p>この IME サーバに現在接続されている Cisco Unified CM が、登録されたパターンで Intercompany Media Service にパブリッシュされるように設定した固有の DID 番号の総数を表します。</p>
IMEDistributedCacheReads	<p>このカウンタは、Cisco IME サーバが IME 分散キャッシュに対して試行した読み取りの総数を表します。この数は、Cisco IME サーバが機能しているかどうか、つまり他のノードとやり取りしているかどうかを示すインジケータの役割を果たします。</p>
IMEDistributedCacheStoredData	<p>このカウンタは、この Cisco IME サーバが提供する IME 分散キャッシュストレージの量をバイト単位で表します。</p>
IMEDistributedCacheStores	<p>このカウンタは、Cisco IME サーバが IME 分散キャッシュに対して試行した保存 (パブリッシュされた番号) の総数を表します。この数は、Cisco IME サーバが機能しているかどうかを示すインジケータの役割を果たします。</p>
InternetBandwidthRecv	<p>このカウンタは、Cisco IME サーバが使用しているダウンリンク インターネット帯域幅の量をキロビット/秒単位で測定します。</p>
InternetBandwidthSend	<p>このカウンタは、Cisco IME サーバが使用しているアップリンク インターネット帯域幅の量をキロビット/秒単位で測定します。</p>
TerminatingVCRs	<p>このカウンタは、コールの受信後に Cisco IME サーバに保存されている Cisco IME Voice Call Record (VCR; 音声コール レコード) の総数を表します。これらのレコードは、学習したルートの検証に使用できます。</p>

表 5-61 IME Server (続き)

カウンタ	カウンタの説明
ValidationAttempts	このカウンタは、Cisco IME サーバが Cisco IME ネットワーク内で着信番号が見つかったことを理由に試行した検証の総数を表します。このカウンタは、システムの使用状況の全体的な指標になります。
ValidationsAwaitingConfirmation	このカウンタは、システムのセキュリティを高めるために引き続きコールを待機している検証済み宛先電話番号の総数を表します。新しいルートの学習に高レベルのセキュリティを使用する場合、Cisco IME サーバでは、ルートの検証が複数回成功してからでないと、そのルートを IP 経由のコールに使用することができません。このカウンタは、使用可能な IP ルートをもたらしなかった、成功した検証の数を追跡します。
ValidationsPending	このカウンタは、学習したルートを取得するための、スケジュールされた検証の試行の数を表す整数です。この値は、Cisco IME サーバ上の Cisco IME サービスの未処理の作業を表します。 値が上限を上回るか下限を下回ると、アラートが生成されます。上限に達すると、ただちにアラートが送信されます。その後、値が上限を下回るまで、1 時間に 1 回アラートが送信されます。上限に達した場合、Cisco IME サービスは、データが期限切れになる前に未処理の作業を完了することができなくなります。この状況が生じると、レコードがドロップされ、検証が行われなくなる可能性があります。作業負荷を減らすには、作業負荷を共有できる Cisco IME サーバを追加します。
ValidationsBlocked	このカウンタは、発信側が信頼できなくなった（つまり、発信側がブラックリストに掲載されていたか、ホワイトリストに掲載されていなかった）ために Cisco IME サービスが検証の試行を拒否した回数を表します。この値は、検証のブロックのために今後 VoIP コールが発生しない状況の数を示しています。

IME Server System Performance

Cisco IME System Performance オブジェクトは、Cisco IME サーバのパフォーマンスに関する情報を提供します。表 5-62 には、Cisco IME Server System Performance のカウンタについての情報が示されています。

表 5-62 IME Server System Performance

カウンタ	カウンタの説明
QueueSignalsPresent 1-High	このカウンタは、Cisco IME サーバ上のキューの高優先順位信号の数を表します。高優先順位信号には、タイムアウト イベント、内部 KeepAlive メッセージ、内部プロセスの作成などが含まれます。高優先順位イベントの数が多いと Cisco IME サービスのパフォーマンスが低下し、検証の遅延や失敗の原因となります。このカウンタを QueueSignalsProcessed 1-High カウンタと併用して、Cisco IME サーバ上の処理の遅延を判別します。
QueueSignalsPresent 2-Normal	このカウンタは、Cisco IME サーバ上のキューの通常優先順位信号の数を表します。通常優先順位信号には、コールの検証、IME 分散キャッシュの操作（保存や読み取りなど）などが含まれます。通常優先順位イベントの数が多いと Cisco IME サービスのパフォーマンスが低下し、検証の遅延や失敗、または IME 分散キャッシュ接続の中断の原因となる可能性があります。このカウンタを QueueSignalsProcessed 2-Normal カウンタと併用して、Cisco IME サーバ上の処理の遅延を判別します。 高優先順位信号は、通常優先順位信号が処理を開始する前に完了する必要があります。そのため、高優先順位カウンタを確認して、遅延が発生する理由を正確に把握する必要があります。
QueueSignalsPresent 3-Low	このカウンタは、Cisco IME サーバ上のキューの低優先順位信号の数を表します。低優先順位信号には、IME 分散キャッシュのシグナリングやその他のイベントが含まれます。このキュー内の信号の数が多いと、IME 分散キャッシュ接続またはその他のイベントの中断の原因となる可能性があります。
QueueSignalsPresent 4-Lowest	このカウンタは、Cisco IME サーバ上のキューの最低優先順位信号の数を表します。このキュー内の信号の数が多いと、IME 分散キャッシュ接続およびその他のイベントの中断の原因となる可能性があります。
QueueSignalsProcessed 1-High	このカウンタは、Cisco IME サービスによって 1 秒間隔で処理される高優先順位信号の数を表します。このカウンタを QueueSignalsPresent 1-High カウンタと併用して、このキューの処理の遅延を判別します。
QueueSignalsProcessed 2-Normal	このカウンタは、Cisco IME サービスによって 1 秒間隔で処理される通常優先順位信号の数を表します。このカウンタを QueueSignalsPresent 1-High カウンタと併用して、このキューの処理の遅延を判別します。高優先順位信号は通常優先順位信号の前に処理されます。
QueueSignalsProcessed 3-Low	このカウンタは、Cisco IME サービスによって 1 秒間隔で処理される低優先順位信号の数を表します。このカウンタを QueueSignalsPresent 3-Low カウンタと併用して、このキューの処理の遅延を判別します。
QueueSignalsProcessed 4-Lowest	このカウンタは、Cisco IME サービスによって 1 秒間隔で処理される最低優先順位信号の数を表します。このカウンタを QueueSignalsPresent 4-Lowest カウンタと併用して、このキューの処理の遅延を判別します。
QueueSignalsProcessed Total	このカウンタは、高、通常、低、最低のすべてのキュー レベルについて、それぞれ 1 秒間に Cisco IME サービスによって処理されるすべてのキュー信号の合計を表します。

Cisco Intercompany Media Engine サーバ アラート

Cisco Intercompany Media Engine 機能をサポートする Cisco Intercompany Media Engine サーバでは、次のアラートを使用できます。詳細およびデフォルト設定については、『*Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide*』を参照してください。

- BannedFromNetwork
- IMEDistributedCacheCertificateExpiring
- IMEDistributedCacheFailure
- IMESdlLinkOutOfService
- InvalidCertificate
- InvalidCredentials
- MessageOfTheDay
- SWUpdateRequired
- TicketPasswordChanged
- ValidationsPendingExceeded
- CriticalAuditEventGenerated

Cisco Unified Communications Manager サーバ オブジェクト

Cisco Intercompany Media Engine をサポートする Cisco Unified Communications Manager サーバでは、次のパフォーマンス オブジェクトを使用できます。

- 「[IME Client](#)」 (P.5-76)
- 「[IME Client Instance](#)」 (P.5-78)

IME Client

IME Client オブジェクトは、Cisco Unified Communications Manager サーバ上の Cisco IME クライアントに関する情報を提供します。には、Cisco IME Client のカウンタについての情報が示されています。

表 5-63 Cisco IME Client

カウンタ	カウンタの説明
CallsAccepted	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が正常に受信し、着信側が応答した結果 IP コールが確立した Cisco IME コールの数を表します。
CallsAttempted	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が Cisco IME を介して受信したコールの数を表します。この数には、受け入れられたコール、失敗したコール、およびビジジー、未応答のコールが含まれます。このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が Cisco IME を通じてコールを受信するたびに増加します。
CallsReceived	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が Cisco IME を介して受信するコールの数を表します。この数には、受け入れられたコール、失敗したコール、およびビジジー、未応答のコールが含まれます。このカウンタは、コールが開始したときに増加します。
CallsSetup	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が正常に発信し、リモートパーティが応答した結果 IP コールが確立した Cisco IME コールの数を表します。

表 5-63 Cisco IME Client (続き)

カウンタ	カウンタの説明
DomainsUnique	このカウンタは、Cisco IME クライアントによって検出されたピア エンタープライズの固有ドメイン名の数を表します。このカウンタは、システム全体の使用状況を示すインジケータの役割を果たします。
FallbackCallsFailed	このカウンタは、失敗したフォールバックの試行の合計数を表します。
FallbackCallsSuccessful	このカウンタは、品質の問題により PSTN ミッドコールにフォールバックした Cisco IME コールの合計数を表します。このカウンタには、Cisco Unified Communications Manager が開始したコールと受信したコールが含まれます。
IMESetupsFailed	このカウンタは、Cisco IME ルートを使用できたにもかかわらず、IP ネットワーク経由でターゲットに接続できなかったために、PSTN を介して設定されたコールの試行の合計数を表します。
RoutesLearned	このカウンタは、Cisco IME によって認識され、Cisco Unified Communications Manager のルーティング テーブルでルートとして提示される個々の電話番号の合計数を表します。この数が大きくなりすぎると、サーバがクラスタ別の制限を超え、クラスタにサーバを追加する必要が生じる場合があります。
RoutesPublished	このカウンタは、すべての Cisco IME クライアント インスタンスの IME 分散キャッシュに正常にパブリッシュされた DID の合計数を表します。このカウンタで動的に測定を行うことで、自分でプロビジョニングした使用法を評価したり、ネットワークで DID の格納が正常に実施された比率を把握したりすることができます。
RoutesRejected	このカウンタは、管理者が番号またはドメインをブラックリストに掲載したために拒否された認識済みルートの数を表します。このカウンタは、検証のブロックのために今後 VoIP コールが発生しない状況の数を示しています。
VCRUploadRequests	このカウンタは、Cisco Unified Communications Manager が IME 分散キャッシュへの格納のために Cisco IME サーバに送信した Voice Call Record (VCR; 音声コールレコード) アップロード要求の数を表します。

IME Client Instance

IME Client Instance オブジェクトは、Cisco Unified Communications Manager サーバ上の Cisco IME クライアント インスタンスに関する情報を提供します。表 5-64 には、Cisco IME Client Instance のカウンタについての情報が示されています。

表 5-64 IME Client Instance

カウンタ	カウンタの説明
IMEServiceStatus	<p>このカウンタは、特定の Cisco IME クライアント インスタンス (Cisco Unified Communications Manager) の Cisco IME サービスに対する接続の全体的な健全性を表します。カウンタに表示される可能性がある値は次のとおりです。</p> <p>0 : 不明な状態であることを示します (Cisco IME サービスが非アクティブであることを意味している場合があります)。</p> <p>この値が 0 の場合、接続が不明な状態になっている間、1 時間に 1 回アラートが生成されます。</p> <p>1 : 健全な状態であることを示します。つまり、Cisco IME サービスがアクティブで、Cisco Unified Communications Manager が Cisco IME クライアント インスタンスのプライマリおよびバックアップ サーバ (設定されている場合) への接続を正常に確立しています。</p> <p>2 : 不健全な状態であることを示します。つまり、Cisco IME サービスはアクティブですが、Cisco Unified Communications Manager が Cisco IME クライアント インスタンスのプライマリおよびバックアップ サーバ (設定されている場合) への接続を正常に確立していません。</p>

Cisco Unified Communications Manager サーバ アラート

Cisco Intercompany Media Engine をサポートする Cisco Unified Communications Manager サーバでは、次のアラートを使用できます。詳細およびデフォルト設定については、『*Cisco Intercompany Media Engine Installation and Configuration Guide*』を参照してください。

- IMEDistributedCacheInactive
- IMEOverQuota
- IMEQualityAlert
- InsufficientFallbackIdentifiers
- IMEServiceStatus
- InvalidCredentials
- TCPSetupToIMEFailed
- TLSConnectionToIMEFailed